



# 東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 166 July. 1. 2021

発行 公益社団法人  
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



「イグルーの米山氏」と「別山を越え白山御前峰を目指す」 本文P20参照

## 目次

○令和3年度支部通常総会・	高橋玲司	○支部員だより	
支部長・新任挨拶	服田康宏	東海岳人写真展の始まり	福田 巖 22
令和2年度事業報告	今津英一朗	○随想すばらしき岳兄たち(3)	杉浦吉治 24
令和3年度役員		○委員会報告 猿投の森	25
令和3年度事業計画		○リレーエッセイ⑬	池戸美恵 26
令和3年度組織図		○同好会コーナー	27
○登山学校第5期開校	服田康宏	○東海支部俳壇	西山秀夫 29
○インド・ヒマラヤ		○支部友コーナー	金谷正起 30
改訂・増補版発行	沖 允人	○60山ラリー経過報告	中村康秋 31
○上高地山研の支障木除伐	和田豊司	○60山ラリー登山記	中島美枝 32
○東海岳人列伝⑱	西山秀夫	○会務報告	今津英一朗 33
○東海支部蔵書からの一冊⑳	石田文男	○ルーム日誌・会員異動	今津英一朗 34
○トピックス		○INFORMATION	星 一男 35
○雪の白山・イグルー巡礼	片岡泰彦	○編集後記	

# 令和3年度支部通常総会・支部長、新役員の挨拶

総務委員会委員長 今津英一朗

## 令和3年度支部通常総会

5月16日(日)午後4時から、令和3年度東海支部通常総会が東海支部ルームで開催された。本年度も、昨年に引き続きコロナ感染症対策として、支部長、副支部長、総務委員長、会計担当のみの出席の中開催された。

冒頭、総務委員長から書面開催の経緯、回収した委任状の充足状況について説明をおこなった。

高橋支部長の挨拶のあと規約により、高橋支部長に議長を委嘱し議事に入った。

**第一号議案**として令和2年度事業報告と決算報告：山田副支部長の事業報告に関する説明および市川会計の決算報告に関する説明がなされた。採決の結果、当議案は可決。

**第二号議案**として令和3年度の新体制：

役員案及び組織図案が提出され、支部長より説明があった。

役員変更：

① 副支部長：山田 明美氏が退任し、服田 康宏氏が新たに副支部長に就任。

② 新委員長：

120周年事業「山岳古道調査」：西山 秀夫氏  
装備委員会：千葉 泰丈氏

写真展実行委員会：伏屋 満氏

採決の結果、当議案は可決。

**第三号議案**として令和3年度事業計画及び予算：山田副支部長による事業計画案、市川会計役から予算に関する説明があった。

採決の結果、当議案は可決。

## 支部長あいさつ 支部長 高橋玲司

令和3年度を始めるにあたりご挨拶をさせていただきます。

本年度も、昨年度来の新型コロナウイルスの感染拡大という、未曾有の災難に遭遇し、非常事態宣言下の年度開始となりました。

新年度の開始にあたり、第一に考えなければいけないことは、日々変化する新型コロナウイルスに向けた、本会としてのガイドラインに基づき、行動していただくことであります。趣味である山登りの活動の中で、自粛しながらの活動となりますが、最大限配慮の上再開



をお願いいたします。中でも、政府が求める『新しい生活スタイル』としての取り組みの工夫を实践願いたいと思います。会議などはウェブの徹底、密にならない登山口までの行き方など、工夫して登山を实践してください。少しずつワクチンも普及するかと思いますが、『新しい生活スタイル』への取り組みは日常化するでしょう。

今年度は、記念すべき60周年の区切りの年ですが、コロナも落ち着いていることを期待し令和4年1月には周年記念式典、講演会など举行したいと思います。久しぶり海外登山では、カナダでガイドを行っている山田利行君が、ネパールヒマラヤのビックウォールを登る計画があります。是非実現を願っています。

さて今、若年、青年、中高年含めて、山に人は回帰しています。しかしながら、山への向き合い方も、人それぞれではありますが、『個』を主体とした延長であり、山のステップアップや交流において『山岳会』は選択肢で低順位であるということです。登山者のステップアップには『個』では限界もあり、山岳会としてのステップアップの場はその役割も大きいかと思います。会員が登山に対するスキルアップを図れる場であり、仲間を作りコミュニティを作り、山岳会の楽しさを感じていただける場を提供することが将来の山岳会組織の盤石となる事かと思ひます。登山学校、山行委員会、技術向上委員会などの活

躍が期待されます。また山の楽しみ方も様々であり、今年度は活発に行っている『猿投の森づくりの会』と連携した活動も行い、支部ライフの活性化も図っていききたいと思います。

一刻も早いコロナの終息と、支部員皆様が安心して山岳会ライフが行える事を期待し、年度のあいさつとさせていただきます。

## 新任挨拶

### 副支部長

#### 服田康宏

このたび副支部長、登山学校運営委員会委員長を拝命いたしました服田康宏です。2018年度から東海ユースの代表も務めています。私が登山と出会ったのは、ラインホルト・メスナーが人類初となる8000メートル峰14座の完全制覇を達成し、「ジョン・ギルのスーパーボルダリング」が刊行され日本でボルダリングが広まりつつあった1980年代半ばのことでした。あれから30年以上の年月がたち、登山人口の増加と高齢化、スマートフォンの普及などで登山のあり方そのものが大きく変わってきました。そんな時代の流れに合わせながら、微力ではありますが諸先輩から受け継いだ良き伝統をつないでいければと思っています。登山は基礎さえしっかり身に付けてしまえば、体力に応じて末長く楽しむことができる素晴らしい趣味です。また山でつながった友とは一生の付き合いができます。みなさまどうぞよろしくお願いたします。



### 写真展実行委員会委員長

#### 伏屋 満

坂本孝前委員長を継いで就任しました。

本年2月に1年延期していた第17回写真展を開催しました。しかし、その後もコロナ禍が続く、山行すらままならない状況のため、



満足いく写真撮影もしばらく不自由ではありますが、徐々に回復していくことを願っています。

登山での写真撮影は、本格的な山岳写真撮影に加え、スマホ等撮影機材の多様化とともに誰でも気軽に楽しめるものとなり、鑑賞方法もプリントのみならずデジタル媒体、動画など多様化しています。

写真展においても、できるだけ多くの会員の方が気軽に参加できるよう工夫していきたいと思っておりますので、色々なアイデアをお寄せください。

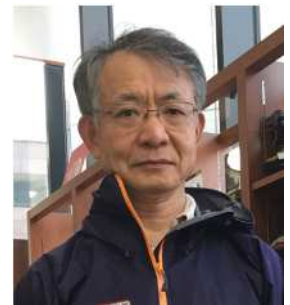
### 装備委員会委員長

#### 千葉泰丈

装備委員会委員長に就任させていただきました、千葉泰丈です。

これまで登山の進化は登山用具とそれを使う技術の進化によるところが大きかったと思います。これから先、より困難に挑戦する登山はもちろん自然に親しむ楽しい登山においても、用具の快適な機能や安全のための機能の追及はさらに進んでゆくものと思われま。

それを適切に使う知識と技術もしかりです。これに沿った活動をできればと考えております。ご意見アドバイス等いただければありがたいと思います。



### 会計 奥山千佳

登山の経験がほとんどないまま山岳会に入らせていただき、はや10年。登山技術はほとんど向上せず、万年初心者ですが、お知り合いがたくさんでき、楽しい毎日を過ごしています。今回、会計のお話があり、少々迷いましたが私が山岳会のお役に立てるのはこの分野しかないと思ってお引き受けしました。

そうそうたる経歴の委員の方々の中で、私のようにのんびり山登りを楽しんでいるものが一人いるのもいいのではないかと思います。では最後に。

皆様、今後は、会費は決められた期限までに絶対支払ってくださいね！

東海支部令和2年度事業報告

期 日	内 容	担 当
I 公益目的事業		
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業		
随時開催	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
随時開催	森の研修会(緑陰講座)、森の工作	猿投の森づくりの会
通年	森の調査(植生調査、ギフチョウ・など)	猿投の森づくりの会
11～3月	なごや環境大学講座 「森からのプレゼント」	猿投の森づくりの会
2月	第17回東海岳人写真展 (前年3月からの延期開催)	写真展実行委員会
(2) 児童・青少年の育成事業		
5、10月中止	たんぼぼ登山(身柄付き補導委託登山)	ボランティア委員会
9月	御在所フェスティバル	東海学生山岳連盟
5月 中止	知的障がい者支援登山 (SON・愛知支援登山)	ボランティア委員会
10月 中止	親と子のふれあい登山教室, 2回 (尾高山)	ボランティア委員会
(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
6月 中止	夏山フェスタへの協力	夏山フェスタ実行委員会
7月	登山学校 第4期開校	登山学校運営委員会
8月11日他	「山の日」啓発活動	「山の日」事業委員会
(4) 事故防止事業		
通年	メール・FAX(書面)による登山届の提出の促進	遭難対策委員会
随時	指導者養成訓練	登山学校運営委員会
秋	チェンソー慣熟訓練	猿投の森づくりの会
随時	安全登山啓発のための情報発信を年3回程度	技術向上委員会
随時	遭難予防講習会 山岳救助訓練などの開催補助	遭難対策委員会・ 山行委員会・青年部
(5) 山岳環境保全事業		
通年	猿投の森及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
通年	JAC 山桜フィールド整備	猿投の森づくりの会
通年	植生等保護作業(調査・マーク・保護処置作業等)	猿投の森づくりの会
通年	林道整備(沿道草刈・路面整備・枯死木処理など)	猿投の森づくりの会
通年	せと環境塾。豊かな自然、自然循環を理解。 瀬戸市の講座。	猿投の森づくりの会
7月中止	HAT-Jとの清掃登山、猿投山	自然保護委員
10月	自然保護全国大会奈良吉野町にて開催1名参加	自然保護委員会
5月～9月	モニタリング1000の類動物調査 環境省の委嘱 猿投の森の動物調査(猿投の森)	自然保護委員会

期 日	内 容	担 当
	(6)その他目的を達成するための事業	
5 月中止	春のブラインド登山(視覚障がい者支援登山)	ボランティア委員会
10 月中止	森の音楽祭と自然観察会他	森の音楽祭実行委員会
11 月中止	秋のブラインド登山(視覚障がい者支援登山)	ボランティア委員会
年 3 回実施	支部員視覚障がい者との親睦登山 (ひまわり山行)	
	10/3 12/5 3/7 (人数を絞って実施)	ボランティア委員会

## II. 共益事業

随時	登山学校同窓会による自主山行	登山学校
随時	自主山行を実施	青年部
5 月 中止	春山合宿	青年部
7 月 中止	小川山合宿	青年部
9 月	小秀山親子登山合宿 参加者 5 名	青年部
10 月	飛騨キノ山行 (森林植生と菌類の関係を学ぶ)	青年部
11 月	冬山合宿 阿弥陀中央稜 参加者 3 名	青年部
年 6 回中止	支部友ミーテング	支部友会
毎月 3~5 回	支部友山行 計画 5 1 回 実施 2 0 回 参加人数延べ 1 0 8 人	支部友会
年間 55 回程	支部定例山行 計画 62 回 実施 29 回 参加人数延べ 148 人	山行委員会
毎月 1 回	亀の会定例山行 月例山行 実施 1 回 参加者 17 名 中止 6 回	亀の会
随時	自主山行 (日帰り+宿泊山行) 実施 5 回 参加者 延べ 65 名 中止 2 回	亀の会
随時	歩こう会の実施 実施 2 回 参加者 延べ 30 名 中止 1 回	亀の会
随時	自立した登山者を目指す会員が、毎月 1 回の定例山行 を自主的に企画。安全登山のための勉強会なども実施 している。会員数 1 5 名。初級者が中心。 原則入会時の年齢は 4 5 歳までとする。	東海 Youth
随時	写真展委員会が主催する撮影山行の実施	写真展実行委員会

## その他活動

### 支部報編集委員会

支部報 年 4 回発行 NO. 161 (4 月) NO. 162 (7 月) NO. 163 (10 月)  
NO. 164 (1 月)

### 総務委員会

支部ガイド 2020 年 7 月発行、  
常務委員会 毎月第四水曜日  
支部長、副支部長会議 毎月第 3 水曜日、

支部通常総会 2019/5/19 開催  
 支部新年懇親会 1月17日 中止  
 通年 メルマガ「東海支部ガイド」配信  
 デジタルメディア委員会  
 通年 支部山行申込システムの管理  
 通年 60山ラリーシステムの管理  
 通年 ホームページによる情報発信  
 図書委員会  
 通年 支部蔵書紹介および蔵書管理 蔵書受け入れ (45冊)

令和3年度役員

名誉支部員 石原國利  
 支部長 高橋玲司  
 副支部長 佐野忠則 今津英一朗 服田康宏  
 監事 天野倅明 和田豊司  
 常任評議員 尾上 昇  
 評議員 大口瑛司 小川 務 梶田民雄 横田明信  
 片岡泰彦 杉田 博 野呂邦彦 箕浦靖夫

常務委員会	委員長	常務委員会	委員長
総務委員会	今津英一朗	登山学校同窓会	高橋玲司
会計	<span style="border: 1px solid black;">奥山千佳</span>	自然保護委員会	井藤恵美子
岳連担当	鈴木愛子	図書委員会	石田文男
支部友委員会	金谷正起	海外登山委員会	高橋玲司
山行委員会	鈴木慎吾	ボランティア委員会	前田隆久
亀の会	加藤守彦	支部刊行物編纂委員会	星 一男
猿投の森づくりの会	和田豊司	遭難対策委員会	山田明美
東海ユース 代表	服田康宏	技術向上委員会	清水克宏
事業企画委員会	今津英一朗	写真展実行委員会	<span style="border: 1px solid black;">伏屋 満</span>
60周年記念事業		森の音楽祭実行委員会	<span style="border: 1px solid black;">今津英一朗</span>
実行委員会	尾上 昇	デジタルメディア委員会	井上寛之
「山の日」事業本部	佐野忠則	東海学生山岳連盟	草野駿希
支部報編集委員会	星 一男	120周年事業	
青年部	荒木 岳	「山岳古道調査」	<span style="border: 1px solid black;">西山秀夫</span>
登山学校運営委員会	<span style="border: 1px solid black;">服田康宏</span>	装備委員会	<span style="border: 1px solid black;">千葉泰丈</span>
登山学校長	高橋玲司		

は前年からの変更。枠なしは重任

令和3年度事業計画

期 日	内 容	担 当
I. 公益目的事業		
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業		
毎月1回	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
7月～9月	森の研修会（緑陰講座）	猿投の森づくりの会
随時	森の工作（間伐材加工等）	猿投の森づくりの会
通年	森の調査 （植生調査、ギフチョウ・など）	猿投の森づくりの会
11月	森づくり体験 （法人デー、NICE 協働作業）	猿投の森づくりの会
10月～3月	なごや環境大学	猿投の森づくりの会
(2) 児童・青少年の育成事業		
年2回	たんぼぼ登山 （身柄付き補導委託登山）	ボランティア委員会
9月	御在所フェスティバル	東海学生山岳連盟
秋	知的障がい者支援登山 （SON・愛知支援登山）	ボランティア委員会
10・11月	親と子のふれあい登山教室, 2回 （尾高山）	ボランティア委員会
11月	森の探検隊（幼稚園児森林体験） 猿投の森	猿投の森づくりの会
(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
6月5日・6日	夏山フェスタへの協力	夏山フェスタ実行委員会
7月	登山学校 第5期開校	登山学校運営委員会
8月11日他	「山の日」啓発活動	「山の日」事業委員会
(4) 事故防止事業		
通年	メール・FAX(書面)による登山届 の提出の促進	遭難対策委員会
随時	指導者養成訓練	登山学校運営委員会
秋	チェンソー慣熟訓練	猿投の森づくりの会
随時	安全登山啓発のための情報提供と 視野拡大のための講演会	技術向上委員会
随時	遭難予防講習会 山岳救助訓練などの開催補助	遭難対策委員会・ 山行委員会・青年部

(5) 山岳環境保全事業

通年	猿投の森及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
通年	JAC 山桜フィールド整備 (炭焼き体験、シイタケ栽培等)	猿投の森づくりの会
通年	植生等保護作業 (調査・マーク・保護処置作業等)	猿投の森づくりの会
通年	林道整備 (沿道草刈・路面整備・枯死木処理など)	猿投の森づくりの会
通年(1回/月)	せと環境塾。豊かな自然、自然循環を理解。 瀬戸市の講座。	猿投の森づくりの会
5月～9月	モニタリング 1000 の類動物調査 環境省の委嘱(委員 6 名)	自然保護委員会
	猿投の森の動物調査(猿投の森)(委員 3 名)	自然保護委員会

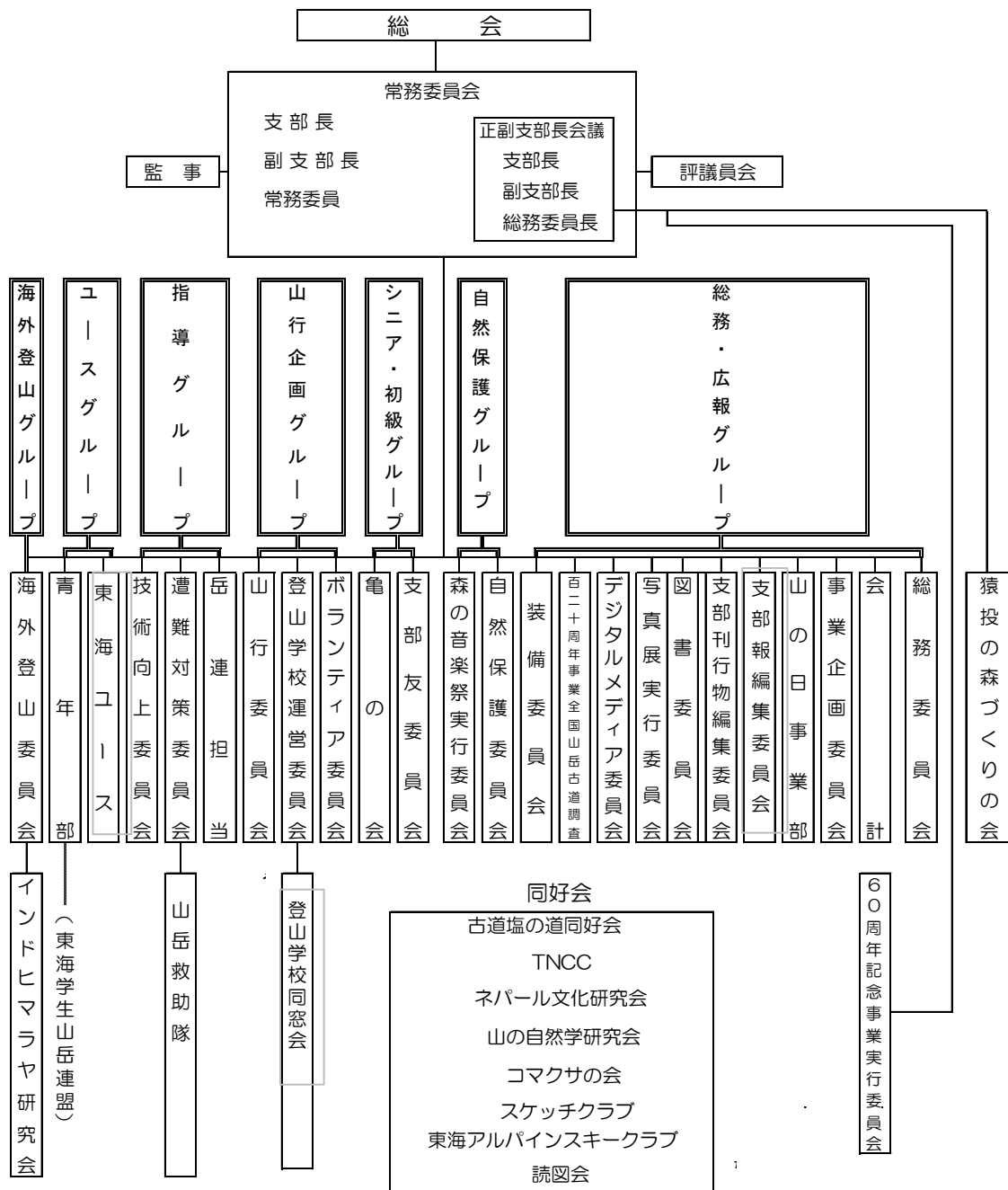
(6) その他目的を達成するための事業

5月	春のブラインド登山(視覚障がい者支援登山)	ボランティア委員会
10月31日	森の音楽祭 と自然観察会他	森の音楽祭実行委員会
11月	秋のブラインド登山(視覚障がい者支援登山)	ボランティア委員会
年3～4回	支部員視覚障がい者との親睦登山 (ひまわり山行)	ボランティア委員会

期 日	内 容	担 当
II. 共益事業		
随時	登山学校同窓会による自主山行	登山学校
随時	自主山行	青年部
随時	山岳溪流、沢登り	青年部
5・6月	春山合宿、読図遭難講習	青年部
9・10月	クッキング合宿、飛騨キノ山行	青年部
12～2月	冬山合宿	青年部
5月19日	支部通常総会	総務委員会
年6回(隔月)	支部友ミーテング	支部友会
毎月3～5回	支部友山行	支部友会
年間60回程度	支部定例山行	山行委員会
毎月1回	亀の会定例山行	亀の会
随時	自主山行(日帰り+宿泊山行)	亀の会
随時	歩こう会の実施	亀の会
随時	東海 Youth 個人山行と定例山行	東海 Youth
随時	写真撮影山行	写真展実行委員会
5月～6月	上高地山岳研究所除伐・整理	猿投の森づくりの会
1月16日	支部新年懇親会(今池ガスビル) 60周年イベントと同時開催	総務委員会



公益社団法人日本山岳会東海支部  
令和3年度組織図



- ・正副支部長会議はチャレンジ基金等の用途を含めた支部業務全般の調整をする。
- ・山岳救助隊は必要に応じて設置される

# 登山学校第5期開校に向けて

登山学校運営委員会委員長 服田康宏

5月に三度目の緊急事態宣言が出され、登山学校のカリキュラムは再度見直しを迫られた。特に中級クラスでは、4～6月に年間カリキュラムの集大成としてテント泊山行を計画していたが中止、順延となってしまった。テントを張り、その中で同じ釜の飯を食べ、おおいに語らうひとときは登山の醍醐味のひとつであろう。楽しみにしていた受講生のみなさんには、申し訳ない気持ちでいっぱいである。また度重なる計画変更に対応していただいた指導員の方々にも頭が下がる思いだ。

一日も早いコロナ禍の収束を願いつつ、7月10日に第5期がスタートする。今期も受講生のレベルに応じて初級、中級、上級の3つのクラスを用意した。

初級の目標は「自立した登山者になる」。山岳遭難の約4割が道迷いであり、特に近年は低山での事故も多い。このクラスでは読図を重点的に学び、他人任せの登山からの脱却

を目指す。

中級の目標は「無雪期テント泊縦走」。初級で身につけたことに加え、パッキングやテントでの生活術などテント泊山行のための知識を学ぶ。もちろんテント、食料を担いで登るため、体力作りも重要なポイントとなろう。

上級では1泊2日の山行を中心に無雪期は岩登りの基礎、積雪期はアイゼン、ピッケルワークなど冬山技術の基礎を学ぶ。唯一雪上テント泊山行をおこなうクラスだ。

また、現地山行だけでなく「気象」「読図」「装備」「計画書の作り方」など計7回の机上講習も実施する。

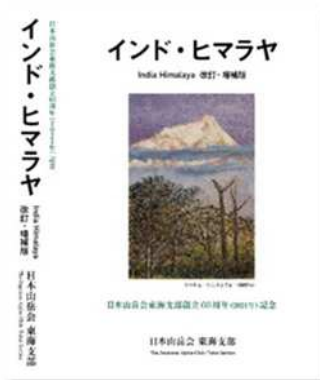
第5期は、前期から1クラス減の初級3、中級2、上級1のクラス編成でスタートする予定である。クラス数は決して多くはないが、ひとクラス5名の受講生に3名の指導員が付く。きめ細かな指導でひとりでも多くの自立した登山者を育成していきたい。

月	内容	初級教室	中級教室	上級教室
7月	行事	7月10日(土)13:00～15:00 入校式		
	机上講習	7月10日(土)16:00～18:00「夏山の気象」 *遭難対策委員会と合同開催		
	現地講習	足並み周知山行(各クラスで適時対応)		
8月	机上講習	8月21日(土)10:00～12:00「登山の基礎知識」		
	現地講習	8月22日(日)	8月28日(土)	8月28,29日(土、日)
9月	机上講習	9月11日(土)10:00～12:00「読図 基礎編」		
	現地講習	9月12日(日)	9月18日(土)	9月18,19日(土、日)
10月	机上講習	10月23日(土)10:00～13:00「登山計画書の作り方」		
	現地講習	10月2日(土)～3日(日)朝明ミーティング		
11月	机上講習①	11月6日(土)10:00～15:00「読図実践編」		
	机上講習②	11月27日(土)10:00～12:00「冬山装備」		
	現地講習	11月7日(日)	11月13日(土)	11月13日(土)
12月	机上講習	12月11日(土)15:00～17:00「冬山の気象」		
	現地講習	12月18日(土)	12月4日(土)	12月25,26日(土、日)
	行事	12月14日(火)忘年会		

## 『インド・ヒマラヤ』改訂・増補版を発行

日本山岳会東海支部では1988年から鈴木常夫が中心となって、インド・ヒマラヤに毎年のように登山隊を派遣し、成果を得ていた。当時の日本山岳会会長の尾上昇が東海支部所属であったことから、日本山岳会創立110周年記念出版の一冊として『インド・ヒマラヤ』を東海支部が纏め、創立記念の年次晩餐会に間に合うように出版することとなった。インド・ヒマラヤの14の山域のそれぞれの山域から選定した山の解説(位置と概要・登山略史・文献・概念図・山の写真)をし、各山域の日本隊の記録を数座載せるという構想であった。インド人3名も含む約40名の各山域の精通者に原稿を依頼し、執筆を開始した。本部の編集者・神長幹雄の協力も仰いでなんとか本が纏まる段階になった。ところが、中心人物であった鈴木常夫が病に倒れるという不幸が起こった。東海支部員の編集委員が後を引き継いで、印刷所(名古屋・浅井隆文社)にも相当な無理をしてもらい、何とか期日に間に合わせ、出版・販売は京都の「ナカニシヤ」で引き受けてもらった。予想されたことであったが、拙速と編集者のせいで多くの誤りがあり、16頁もの正誤表を作成しなければならなかった。

類書がなかったこともあり、一応の評価は得られたが、このままにしておくのは出版社・編集者として責任があると考えて、手薄だったシッキムを充実し、その後、注目されてきた、東カラコルムのロンドー谷やザンスカールのムルング谷の山々などを追加し、改訂・増補版を発行することになった。本来なら「ナカニシヤ」にお願いすべきであろうが先代代表者が他界され、山の本の出版に重きをおかないということから、名古屋の風媒社に採算を度外視して印刷・出版を引き受けていただいた。



Sikkim, Siniolchu (6887m) from icefall

(photo. M. Hosaka)

編集にかかわれる者は数人になってしまったが、鋭意努力した。初版の657頁より75頁増えて732頁となった。この種の本を継続して購入してもらえる読者はあまりないと予想して、100部印刷することにした。定価の15000円は安くはないが、それでも出版費用の半分ほどである。2015年12月から6年過ぎた2021年4月に東海支部創立60周年記念として発行できた。

カバーのカラー原画版は、東北大学医学部部長陵会によるシッキム・ヒマラヤのシニオルチュー(6887m)とし、どちらも杉田博会員による油絵である。

改訂・増補版の編集者として一応の荷をおろすことができた。しかし、費用の関係から、専門の校閲者・編集者を依頼できなかったこともあり、すでに、いくつかの間違いが見付かっている。後に続く人が版を重ねてくれることを期待したい。(「山」5月号の記事を一部修正した)

改訂・増補版の問合せ・申込は星 一男

(E-mail: khoshi@catch.ne.jp) へ。

(編集長 沖 允人)

# JAC 上高地山岳研究所(山研)の支障木除伐

猿投の森づくりの会代表 和田豊司

上高地梓川にかかる河童橋横にある山研は1961年に林野庁から土地を借り受け研究施設として活用されている。善六沢の扇状地の裾に位置し、笹の生い茂る湿地にハルニレ、サワラ、イチイ、カツラ、ダケカンバ、ヤチダモなどが生育している。猿投の森の植生とは全く異なる。

今の建屋は3代目で1993年に建てられ、当初は見通しのきく六百山や岳沢が見通せる敷地であったようだ。次第に木々も成長し枯れ枝の屋根への落枝、落ち葉、猿による糞害などが目立ち始め、建屋に影響を与えるようになった。業者による除去が検討されたが古野会長からせつかくJACとして森づくり活動をしているのなら自分たちの手で支障木の除去作業をしてはとの提案で山研委員会が中心になって今回の作業が企画された。国立公園内の厳しい規制のある条件下、除去に関わる許認可や手続きは山研委員会が



上高地での山研の位置

行った。当初20本ほどの支障木の除去や水力発電設備であるパイプライン上の枯死木除去も申請したが建屋廻りの11本の除伐と2本の枝打ちのみが認可された。

支障木の除去はハヶ岳ツリーワークス（特殊伐採業者、経営者は東海支部員で元ロツェ南壁隊員）がハルニレやイチイの枝打ちと2本の除伐。9本のカツラ、サワラなどを猿投の森づくりの会が担当した。



山研北東側 除伐前



除伐後

通常であれば伐倒に邪魔な小さな木や草を除去した上、安全な足元を確保して行う作業だが枯れ枝1本除去するにも気を遣う国立公園内であるため作業しにくい。笹が生い茂る湿地での作業は足元が不安定である。枝打ちした直径90mmほどのイチイの枝の年輪を数えたら103年であった。明治初期上高地の用材としての伐採が禁止されて以降



八ヶ岳ツリーワークスの空中作業

の年数とほぼ一致する。巨木とまではいかないが100年を越える木々を除伐するには少し気が引ける。

建屋や立木に当たらないよう伐倒方向を定め、さらにロープで牽引し安全を確認してゆっくり倒す技術は猿投の森でいつも経験している。むしろ枝打ちは経験がなく、八ヶ岳ツリーワークスの仕事である。スローラインという道糸で最上部に細い糸を通し、その糸を使って安全確保用のロープを通し支点を作る。人はロープに身を委ね作業する。切った枝は別の支点を作り切った枝を吊るし、ゆっくり地上に下ろす。20m程上空の軽業師である。猿投の森づくりの会でもM氏はこの作業が可能である。



サワラの伐倒

任された9本の木は順次伐倒し、ハンドリングできるサイズに切り（玉切りという）整理していく。枝も細かく切り、きれいに揃えその場で腐らせる。持ち出したり薪に活用することはできない。

当初28人・日の作業計画で企画したが、好天と卓越した技術、会員の素晴らしいチームワーク、八ヶ岳ツリーワークスの支援により12人・日で作業を終えた。



チェンソー作業



除伐に参加した皆

## 東海岳人列伝(19)

### やぶ山と山書にかけた高木泰夫

編集委員 西山秀夫

#### 大垣山岳協会を拠点に

高木泰夫には87年に『奥美濃一やぶ山登山のすすめ』の単著が1冊ある。これは07年に3訂が出て20年以上も息の長い隠れたロングセラーになったことが分かる。

前出の本の巻頭にこう書いた。「その日、私たちは猿ヶ馬場山の頂上にいた。今から十年ほど前の晩春である。思えば、あの時が私にとっての山登りの転回点だった。ようやく寄る年波に足腰の萎えてくるのを覚え始めると、自分の来し方と行方に思いを巡らしていたに違いない。そんな時、今西錦司先生に会い、ヤブ山登山の楽しみを教わった。

あの日から世界が変わった。もう何も気にすることは無い。慮ることもない。山は無限に近いほどあるし、人は誰も来ない。人が来ないから道はない。したがって当然、谷を遡り、滝を攀じ、ヤブをくぐって頂上に立つことになる。その間、緑林と碧溪、去来する白雲と息づく風の歌声さえ相手にしておればよい。まこと眼前には自由闊達の世界がひろがっているのではないか。

山静似太古 日永如少年

以来、今日までヤブ山巡礼を重ねてきたが、今後もこの世界にのめり込んだままにちがいない。本書は、その軌跡の一端である。

そして更に一首

来し方を八重の白雲隔てつつ

いとど山路のはるかなるかな

和泉式部

以上。

何と格調の高い序文であることか。以降はやぶ山登山の魅力伝えて余すところはない。

で、今西と出会う前はどうかだったのか。以下に優れたオルガナイザーだったと分かる文章を引いておこう。

「すばらしかった事前準備と研究

丹生 統司

高木先生の素晴らしさを語る時、その一番は卓越したマネージメントにあった。シャー・イ・アンジュマン登山隊の武藤隊長は登頂報告の中で「私は雇われマダムに過ぎず遠



征の本当の隊長は高木泰夫で遠征の実質的推進力で有った」と述べている。先生の事前の

研究と周到な準備がなければ登頂成功はなかっただろう。現代と違い地図に空白地も多く情報が少ない時代、先生の情報収集能力は群を抜いていた。

当会は「ハイキングからヒマラヤまで」を活動範囲に掲げたが、若手は川合リーダー他クライミング中心で夏冬春構わず徳高や剣岳合宿を繰り返した。クライミング技術中心をいぶかる声もあったが、先生は技術志向の登山に理解を示した。先生自身は奥美濃のヤブ山登山の魅力を会に浸透させて若手と先輩諸氏との融合に骨を折られ会の存続に寄与した。大垣山協中興の祖と言われる所以である。」

高木氏の人間性を高く評価している。是とする。

#### 71年東海支部から岐阜支部が独立

それでは、転回点になった人物の今西錦司はどんな人だったのだろうか。山岳書の出版史と今西さんの東海地方とのかかわりを見てみたい。

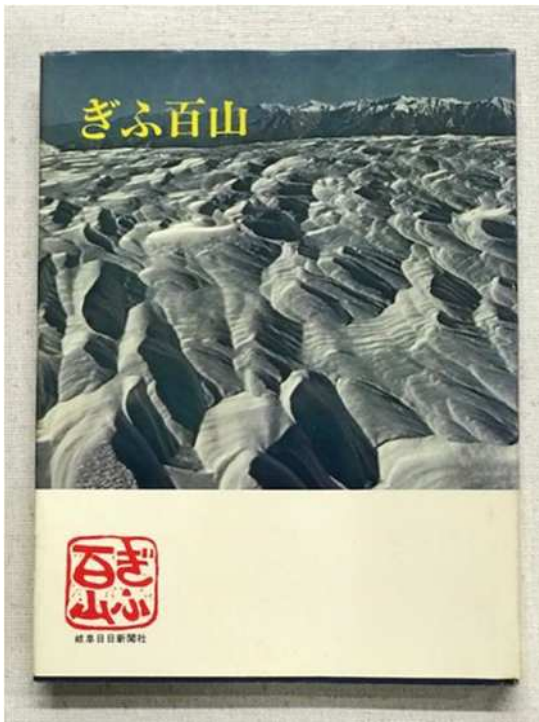
今西錦司とやぶ山へ

1948年 鈴鹿の山 中京山岳会編 中部日本新聞社（現中日新聞社）

・・・既報の通り、中京山岳会は毎日新聞や中日新聞の記者が会員として活躍していた。取材登山、書く、写す、編集出版の手練れもいた。粗末な紙でも入手できたのは新聞社だったからだ。地方のガイドブックの嚆矢である。鈴鹿の山も岩も開拓期であった。そんな時代が一段落した時、今西が奥美濃の山々を登るための拠点を作った。

1956年 今西52歳 犬山モンキーセンター設立

1961年 愛知、岐阜、三重の登山家が集結し、



日本山岳会東海支部を設立。

1967年6月 今西65歳 岐阜大学学長（第4代）

1971年10月 今西69歳 日本山岳会岐阜支部長（初代）

\*東海支部から岐阜の在住者を集めて岐阜支部を設立。

1973年

5月 今西71歳 岐阜大学退職

6月 今西71歳 岐阜大学名誉教授

1975年 奥美濃 山葵会 私家版

\*今西の序文「50年前の奥美濃」の最期には「奥美濃には、京都北山にも北アルプスにもないよさのあることを知って、われわれは大満悦で帰路についた。」とあり、すでに50年前に奥美濃の魅力に取り付かれていた。岐阜大学への赴任は多分今西の希望であろうか。

1902年生まれの今西はすでに70歳になっており、60歳代はサポートを要したであろう。高木氏に近い人に、当時は45歳の高木と「今西先生との関係は子弟なんですか」と聞いたら、「否同志ですね」と回答された。年齢差は28歳だから尊敬の念をもって交流されたと思う。

本文のドウの天井から少し引いてみる。「ぼくは子供のころから胃腸が弱く、谷筋に登路を求めることの多い奥美濃の山は、勢い下半

身を濡らすことになるので苦手だった。」と意外な書き出しである。高木氏が40歳代前半の頃のこと。中略。「それがいきなり、藤井さんに言わせれば、奥美濃最期の山である「ドウの天井」へ同行し得たのは幸運だった。

発案は今西先生、随伴する者、岐阜大学の藤井先生、木村、霊長研の西村、そして前記の三氏（高木埜、大槻、藤井）。」以下略。自由にきままに奥美濃の無名の山歩きを楽しんでいる。

1975年 ぎふ百山 岐阜県山岳連盟

岐阜日日新聞社（左写真）

\*今西の序文なし。当然あったはずだが、「サンノーの高」という山が洩れているとの指摘があり、書いてもらえなかったようだ。

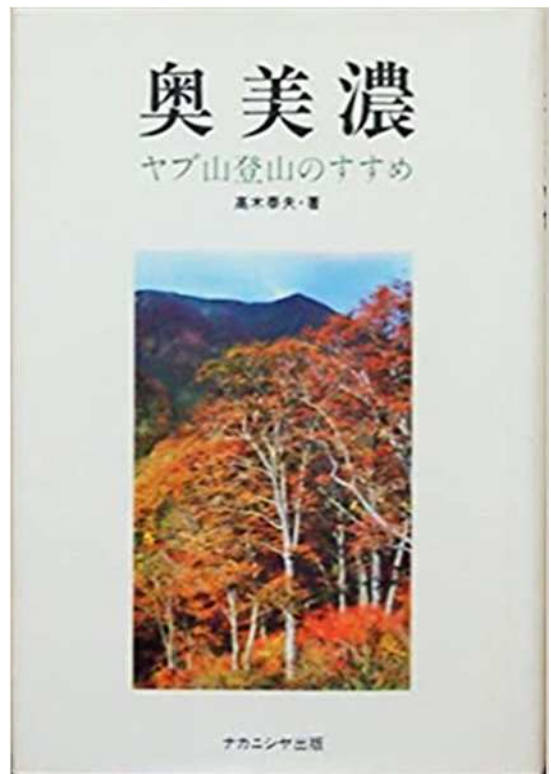
1979年 樹林の山旅（復刻版） 森本次男

サンブライト出版

1987年 奥美濃一やぶ山登山のすすめ 高木

泰夫 ナカニシヤ出版（下写真）

\*今西とドウの天井に同行した写真がある。これまでの年表と挿入した文とで、本書は今西さんとの交友録になっていると分かる。



1988年 飛騨の山美濃の山 酒井昭市  
山と溪谷社

\*岐阜県。病気で教職を早期リタイアして山三昧の生活だったが飛騨の山々の本を残して亡くなられた。高木氏らと同じ奥美濃愛好家として知られる。

1993年 ぎふ百山(続) 岐阜新聞社出版局

1996年 美濃の山(第一巻から第三巻)  
大垣山岳協会 ナカニシヤ出版

2003年 未踏の岐阜県境800キロを歩く 大垣山岳協会 岐阜新聞社

以下略。

### 今西錦司の薫陶をうけて

今西錦司と『ぎふ百山』のまえがきの話は前述した。登山の道々で語られたのであろう。今西は1906(明治39)年の『日本山嶽志』のリニューアルを希望されたという。その夢が新日本山岳誌の編纂につながる。1902年生まれ、今西にとっても山岳書の古典に違いない。高木さんの脳裏に深く刻み込まれたのである。それは『新日本山岳誌』となって結実した。

### 『ぎふ百山』の執筆者として

小津権現山の文でいろいろ教わるが多かった。木地師とか江戸時代の美濃地方の地誌である『美濃明細記』、『新撰美濃誌』などを知った。私も後には購入して愛蔵書とした。江戸時代の山の村はこうだった、と古文獻にあたって調べることはさすがに高校教師だけのことはある。そんな机上の山の楽しみ方を伝授してもらった。

岐阜岳連の木下喜代男氏のブログから引用。「『ぎふ百山』という山の本があることを、今ではご存じない方が多いかも知れない。

なにせ今から44年前の昭和50年に、岐阜県山岳連盟が県内の秀山を選んで出版した古い本だ。

この本はもう忘れられていると思ったら、先般まだ完登を目指して登っている人がいると聞いて驚いた。

この人は愛知県の山岳会の人だったが、他にもそんな人がいて、なかには最近3年かけて完登した人もいるとのことで、共著者としてはうれしい限りだ。

この本が世に出たころは、まだ各県などの「百山もの」が発刊ブームになる前であり、ガイド本も少ない時代だったので、多くの登

山者がこの本を見て県内の山に登るようになった。

当時は今より登山道がなかった山も多く掲載してあったので、そういう山を好むベテラン登山家などからも好評を得たし、この百山巡りの愛好者によって「ぎふ百山を登る会」という山岳会がつけられたくらいであった。

「百山」になっているが実際は120山を選定しており、執筆者は10名(既にその半数が鬼籍に入られた)。

トップは美濃人のハイマートである伊吹山、ラスト120山目は、今も道が無く残雪期しか登れない、深田久弥が『日本百名山』に加えたかったという笈ヶ岳(おいずるがたけ)である。

それぞれの山と山麓の歴史、民俗についていろいろな文献を渉猟して詳しく調べてあり、当然登るための案内文もある。「『ぎふ百山』が出たのは約半世紀前のことなので、アプローチ、登山道などの情報がかなり古い。

このため大垣のSさんが県内の山について独自の選定をし、出版の準備を進めておられると聞いた。」余談であるが、このSさんこそ、新刊『岐阜百秀山』の清水克宏氏のことだった。

ともあれ、『ぎふ百山』は多岐にわたる教養書なのである。何時間でどんなルートで登った下ったという本ではない。息の長い本にはそれなりの理由があった。中でも高木先生の文は傑出していたと思う。署名はないが、文脈から分かるようになった。それは漢詩文の教養からくるものであろう。

### にじみ出る漢詩の教養

高木氏の警咳に接した際に白居易という漢詩人の名前を口にされた。白楽天の方が知られているだろう。さっそく取り寄せて、調べると

本文

寄題送王十八帰山仙遊寺 白居易(白楽天)

曾於太白峰前住  
数到仙遊寺裏來  
黒水澄時潭底出  
白雲破処洞門開  
林間煖酒燒紅葉  
石上題詩掃緑苔  
惆悵旧遊復無到



## 菊花時節羨君廻

訳：その昔、私が太白峰の麓に住んでいた頃はよく仙遊寺へ出かけたものだ。

水が澄む秋の季節には、川淵の底まで透けて見え、白雲が切れた辺りに仙遊寺の山門があった。また仙遊寺の林間では散り落ちた紅葉を焚いて酒を煖めたり、緑苔を払った石の上に詩を書いたりしたものだ。

ああ残念ながら、昔遊んだあの地に私はもう二度とは行くことはないだろう。

菊の花の咲くこの季節に、そこに帰っていく君が羨ましいよ。以上

こんな漢詩の一節を書いた年賀はがきをいただいたこともあった。山登りをすることで詩心まで刺激されるのであろう。

### 冬の小津権現山を眺めて追悼

2015年1月23日。JACのデジタルメディア委員会からの一斉メールを開くと、高木泰夫先生が死去されたとの訃報であった。思わずえっ、と声をもらしてしまった。今年のお年賀の返信がないのでもしや病臥かな、と思っていた矢先のことであった。死因は肺がんとのこと。葬儀場で山岳会関係者に聞くと以前から入退院を繰り返しておられたようだ。享年85歳だった。



高木先生とは『新日本山岳誌』の編纂を通じて17年くらいの交流になる。とはいえ、2005年のJAC100周年記念に上梓すればその後はお年賀だけの交流に過ぎなかった。今年はJACの110周年というので改訂版を出す準備をしている。東海支部でも分担の90座分の原稿を見直す作業に入っていたから、高木



先生とのご縁を感じずにはいらなかった。

山行は一度もご一緒する機会は無かったが、氏の著作のガイドを読んで山に

行けば案外、同行二人とはいえる。どちらかと言えば漢詩を書かれるだけに文章は硬かった。高校教師から校長の地位まで昇られて職業人生を全うされた。大好きな山三昧で終わり、大往生といえるだろう。

なんといっても傑作は今西錦司の遺志であった高頭式編『日本山嶽志』の改訂版を出すことに注力されたことだ。JAC内の反対を押し切り、ついに2005年のJAC100周年記念出版に間に合った。その緻密で粘着質な編纂ぶりは上梓直前に腰痛に見舞われたことで押し量ることができよう。私も病院までお見舞いに行ったことを思い出す。

訃報には1月23日の夜に御通夜、1月24日に告別式とあった。久々に穏やかな冬晴れの24日、名古屋を昼前に発って、弥富ICから揖斐川左岸の堤防道路を北進した。前方には雪を冠る奥美濃の山々が見渡せた。御嶽山などの高峰も見えたが、何といっても南宮山の右手に小津三山の特徴ある風姿が素晴らしかった。やぶ山だった三山も今は道が開けたと言う。先生はやぶ山に登ることで原始的登山の意義を説かれた。私もその信徒の一人である。今はただ、静かに山へ帰ってゆかれるのを送りたいと思う。

雪冠る小津三山にかえるべし 拙作

以上はブログに書いた追悼文の一部である。

その後、平成27年6月7日に今年初めに亡くなった高木泰夫元副支部長の散骨供養式が小津権現山頂で行われた。

以下は再び木下喜代男氏のブログから引用させてもらおうと、「葬儀でのご遺族のご挨拶は、「山に明け、山に暮れた人生でした」「学校（高校の生物の教師で、大垣東高校の校長でご退職）では生徒に山の話ばかりしていたようです」。

会員による葬送歌は、ご本人の希望で「星影のワルツ」「惜別の歌」だった。



## 東海支部の蔵書からの一冊②⑧

図書委員会委員長 石田文男

### 『登山者のための地形図読本』

著者・五百沢智也

深田久弥の〈推薦のことば〉が何よりこの一書を言いあらわしている。『五百沢君のこの新著ほど、地図について何から何まで教えてくれる本はあるまい。その懇切丁寧さはどんなに小さいこともゆるがせにしない丹念な性格と、実地で鍛えあげた緻密な頭脳があればこそである。素通りして読む本ではない。折にふれて広げるとに新しい発見がある。

・・・思えば私が初めて地図を買ったのは、中学一年のときであった。・・・以来五十年、五万分の一は私の山行に欠かすことのできない伴侶であった。しかし、・・・私はまだ本当によく読み取っていないことを、この本によって知った。私の気づかないことが、あの一枚の紙の中にまだまだたくさん含まれていることを教えられた。・・・いつか私は彼から、彼の発見した日本の旧氷河の話を知ることがあるが、実はそれが彼の本職なのである。五百沢君はこの本のはじめに、著者の念願として地図を読むことに終わらず、地図を通して山を読んでもらいたい、と言っているが、いい言葉である。だが地図が十分読めなくて、どうして山が読めよう』と。少し長い引用になってしまった。が、このことばから本書の一端を窺い知ることができ地図に向かう姿勢を分かってもらえると思うのだが。

さらに、うまく伝えられない私の言いたい事を、この書の「はじめに」からの引用で読図の意義・楽しみ的一端に繋がればと思うものである。『地図を持って山へ行こうと考えておられる人、そんなあなたのために書いたのがこの本です。・・・地図は私たちに山や川の名前を教えてくれるばかりでなく、山の形や高さ、道の距離や行く先、土地の広さ、方角、眺望、植物の分布、人間の生活や土地利用等を教えてくれます。・・・、こうした地図もリュックサックの底に入れっぱなし、あるいはマップケースに入れてぶら下げているだけではなんの役にも立ちません。地図は眺めたり、見たり、読んだり、計ったり、分



析したり、そして考えたりして初めて役に立つもの・・・。この本を通して地図を読むことから山の自然を観察し、その成り立ちを考えるとところまでみなさんの読図が発展したらどんなに嬉しいことでしょうか。私の念願は皆さんが地図を読むことに終わらず、地図を通して山を読んでもらいたいというところにあります。そうなればあなたの山行は安全さと確実に豊かさが手を組んだ強靱なものとなるに違いないからです。』

「推薦のことば」「はじめに」の全文を載せたいところなのだが。すれば、あるいは読者のあなたに地図への姿勢と意識を高めてもらえはしないかと。登山学校もまもなく第5期に入り、これらの書が年々高まっている読図意識の一助になればさらに幸いに思う。

4項と12章から成っているこの書の4頁にわたる目次を追っていくと、どの一項目にもたちまち注意・興味をそそられる。そこを広げるとついつい最後まで読んでしまう。「地図を読む基礎：等高線の知識・地名調書」「室内での読図：地図から読めること・登山計画のための読図」など・・・。

参考文献として『地図の読み方と利用法』『山はどうしてできたか』『日本アルプスと氷期と氷河』など37点あり、「この本を読む際に参考にしてもらいたいものを挙げておく」とある。

ちなみに、私がこの書を手にしたのは発行された年で、少々古びた感もするが今も愛読の1本である。

この書と合わせて私が愛読している2点を挙げたい。『ヒマラヤ・トレッキング』（発行：1976・5・1）「山脈のなりたち」「氷河と氷河地形」などは地殻変動・地図に結びついて興味深い。豊富な写真と巨峰郡の鳥瞰図は圧巻だ。『鳥瞰図譜=日本アルプス』（発行：1979・11・9）。今西錦司は序で「しかし、地理学を専攻した五百沢君は、・・・航空写真を利用して氷河地形を探し出すという、新しい方法を開拓した。航空写真から模写したスケッチを『岳人』誌上に連載して・・・このスケッチはまさに彼独特のものなのである。その一枚一枚がアートであり彼の創作である」と述べている。

「・・・日本の高山を取りあげて、筆者の撮影した空中写真を実体視して挿画した細密

イラストを中心に、日本の氷河地形研究の歩みと筆者の観察や登山の記録をまとめ、地形図ではなかなか表わせない山岳地形の詳細を読者に提供しようという趣旨であった」と、まえがきにあるが、まさにそのような出来栄えで見事だ。大判（B4変形）でありどの山も圧倒的だ。私はたびたび読図会で使わせてもらっている。

地図を読めるようになりたいと・・・願うならば一度は「地図に関する本」をしっかりと読むことだろう。幸い支部の蔵書には十数冊の地図本が含まれている。ぜひ活用したい。ちなみに、この2冊は蔵書に無い。

B6判414（+索引10）頁

発行：昭和42年3月

発行所：（株）山と溪谷社

## TOPICS

### 清水克宏会員『岐阜百秀山』を発売 記念講演会の開催

清水克宏技術向上委員長は、5月20日にナカニシヤ出版より『岐阜百秀山』を発売した。

（A5判288頁、本体2200円+税）



清水委員長が岐阜県の山を取り上げ、ガイドブックというより長年愛し活動拠点としてきた「佳き山（よき山）」を100秀山（清水さんのオリジナルセレクト）としてまとめ、解説されている。資料調査に加え、道なき道を実際に踏査された力作である。

6月19日（土）には、「岐阜百周年」発売の記念講演会を OMC 支部ルームと zoom 併用で開催した。最初に発売経緯と百秀山選定の方法などの説明があり、お勧めの山の紹介もあった。ルート解説だけでなく、それに関わる地元の風土などについても、民俗学的なエッセンスが含まれ、参加者は興味深く話を聞いた。

### 東海山岳12号の原稿を募集しています

2012年に東海山岳11号を発行してから8年以上が経ちました。その間、公益法人化や自前の登山学校の発足、青年部、支部友会や同好会等活発な活動がなされています。

構成内容

I 支部60年史 II 50年史記念事業 III 海外登山 IV 国内登山 V 支部の活動報告  
VI 研究 VII 随想 VIII 追悼 など

東海支部員各位が過去・現在・未来と支部の活動を繋げていくためには、支部の活動のありのままを記録に残すことが重要です。支部員各位に原稿を募集します。原稿締切りは10月末の予定です。問い合わせはE-Mail: [khoshi@katch.ne.jp](mailto:khoshi@katch.ne.jp)までお願いします。

支部刊行物編纂委員会・星 一男

# 雪の白山・イグルー巡礼

2021/3/21～3/26

技術向上委員会委員 片岡泰彦

アルピニズムの世界では、高さ、先端、遠きを目指すことは喜ばしいことですが、今や齢を重ね老齢恩恵制度をすっかり利用し、徐々に釣鐘山のような人口構成グラフの上部層に近づき、毎年高みと先端への階段を登高しているというか押し上げられている。まあ高齢化にともない年代別の仲間も多いようだ。加えて昨今のコロナ禍は、様々な自粛やイベントの縮小をもたらし、登山や遊びに対して後ろめたさを感じさせ、ステイホームなどという新語に押されるがまま、社会の片隅に追いやられるような閉塞した気持ちをもたらせる。

登山活動においては、体力が低下し、重荷での行動が苦痛を伴うようになり、山中でのテント泊の機会が減るにつれ、当然のことながら行動範囲が狭くなっていた。日帰りやスキーなどの安近短的な登山に流れつつあった。昨年8月にNHK名古屋局に30年来の知人である米山氏が赴任して、「イグルー」は大幅な軽量化と機動力をもたらすと甘い刺激をうけ、単純にもその気になってしまった。埃の被った雪山道具を引きずり出し、3月21日（日曜日）国の緊急事態宣言解除に合わせて、一緒に白山に入ることになった。なんでも彼は「イグルスキー米山」として各地で講習会を行うその道の有名人のようだった。

白山は昔から富士山、立山と並んで信仰の山として知られ、全国に白山神社が点在している。石徹白は美濃禅定道の登山基地として由緒ある神社や伝統文化が多く残された村だが、観光地を目指さず、信仰と共にひっそり暮らす生活を選択したかのように、コンビニも酒屋もない。公共交通手段が不便で、登山口へのアプローチで悩んでいると、米山氏と同僚カメラマンが乗鞍へ行く途中に立ち寄りしてもらえするという、白山権現が降臨したかのタイミングで石徹白に辿りつくことができた。今回は「加賀の白山」でなく「岐阜の白山」に拘るべく、なるべく岐阜県側稜線にルートを求める

こととし、美濃禅定道を白山頂上（御前峰2702m）へ、そこから北東に伸びる中宮道～念仏尾根を経て飛騨側にある世界遺産の白川郷に下山する計画とした。



行程図



別山の頂上も間近



イグルーの米山氏



スキューのソール剥がれ発生

21日 大雨。中居神社からほんの少し歩くと雪面になったのでシール歩行。特別天然記念物の大杉を経て、宮嶋避難小屋泊。白山権現の導き

でタイミングよく登山口に来ることができたが、雪景色の中、全身ずぶ濡れとなりイグルーを掘るところではない。車で送ってくれたカメラマン氏は初日を一緒に過ごす予定であったが、あまりの悪天に大杉で

引き返した。

22日 低温、曇天小雪強風。手袋の先端が凍ってゴワゴワしている。しばらくすると溶けて柔らかくなると期待したが、テムレス手袋はしっかり低温を保っている。耐えきれず途中でウールの手袋に交換した。濡れた体、なまった体に厳しい白山の試練が下る。銚子ヶ峰、一の峰、二の峰を超え越前領（福井県）の三の峰避難小屋へ入る。

23日 快晴、強風。濡れて湿気のあるものが全て凍り付き、相棒は朝から靴をガソリンコンロで炙り溶かしてやっと履けた。別山（2399m）の向こうに御前峰が見え隠れするようになった。泊まり場に着くと、イグルーは一人で作るもんだと米山氏が約40分で作ってくれる。小生は、ブロックを切り出すだけの軽

労働。イグルーに入ってみると、狭いので体の硬い年寄りには辛いとクリームをつけた。翌日は足を伸ばせ、背伸びも出来る一回り大きなイグルーを作ってくれた。遠慮せずに勇気をだして言うてみるものだ。

24日 快晴、今日は最高点の御前峰を越えるので、朝6時に出発した。朝の冷気に気が引き締まるが雪面もカチンコチンで緊張が続く。加賀領（石川県）にある室堂はなかなか立派な建物で山岳信仰の深さを偲ばせる。雪質が目まぐるしく変わるので、アイゼンとスキーを脱ぎ履きしながら中宮道を辿る。間名古の頭の斜面でイグルー建設。

25日 ガス、三又峠からオモ沢の斜面は快適な滑走ができた。米山氏のスキーの裏側に何か紐状のものが垂れている。「シールが外れているよ」と注意したらなんとソールが剥がれている。相当古くなければソールは剥がれない。そういえばストックも金剛杖のような太い竹ストックだ。トンキンストックより、もっと安価なしろものだ。靴は皮製、締め具はジルブレッタ、道具を大切に友人だと改めて思った。

26日 高曇り、今日は野谷荘司山から白川郷へ下山する日。三方岩に囲まれた三方岩岳経由で馬狩に下山した。馬狩には、トヨタ自動車の近代的な自然学校の施設が出来ていて吃驚。白川郷には名古屋行の高速バス停がある。平日にも関わらず観光客もチラホラ。合掌作りの風景も整然と広がり、後世に残す自然遺産の保存活動も進んでいる。白山信仰にとらわれず、観光の村として方向性を定めたかのように感じた。

今回、軽量化した宿泊装備を担ぎ、雪の白山巡礼道を、誰にも会わず、辿ることが出来て新鮮な山行でした。

イグルーはテントや雪洞と同様に泊まり場として使うほか、悪天候や緊急時避難などの雪山技術の一つとして習得するのも良いかもしれません。只、不確定要素が多い山中でイザという時に使いものにならないようでは、生きた技術とは言えない。技術向上委員会では来年2月～3月に「イグルスキー米山のイグルー講習会」を開催する予定なので、興味のあるかたは、技術向上委員会のお知らせなどに注意していただくとよい。

## 東海岳人写真展の始まりの頃

元支部員 福田 巖

東海支部評議員の横田明信氏から電話で「今年にはコロナ禍で大変だったが無事に第17回岳人写真展が終了した。写真展の初期の頃のことを書いてほしい」との依頼があった。約35年前のことだからよく覚えていないのだけれど、少し間違いがあってもよいから頼むとのことと臆気ながら書くことにした。

当時、東海支部の登山家たちはヒマラヤへ遠征隊を出す基盤として発展させようと意欲をもっていたが、今の東海支部のようにしっかりした組織的な活動はしていなかった。山岳会としては名古屋山岳会、中京山岳会、三重の岩稜会、鈴鹿山岳会などがそれぞれ活躍していた。

岳人写真展は初めから東海支部の写真展として発足したのではなく、鈴木重彦さんとその周りの仲間たちで私的に始めた小規模の写真展でスタートした。

気心の知れた山男たちが年に何回か集まって山の報告をしあう会を伏見の喫茶店『森』で開いていた。外国の遠征隊がヒマラヤのどこかを初登攀したとか、国内で穂高の北壁を冬期に初登攀をしたなど熱く語りあっていた。我々も遠征隊を出せるような組織作り・山登り先陣争いの話題が飛び交っていた。

私は家訓として鉄砲と山登りはご法度、親と先生には反対しないと厳格に躰られていて、山、特に冬山とは無縁であったから、その会にとりわけ引き付けられ、興味深いものであった。その都度鈴木さんに連れられ参加していた。それぞれが持ち寄る写真と話題に引き付けられ、特に冬山写真に見とれていたことを覚えている。

年長の愛知大山岳部初代キャプテン柳さんは別として、集まるメンバーはお互いあだ名で呼びあっていた。ドンちゃん、ピンちゃん、クニちゃん、ノロちゃん、グッチャン、セコさん、ショウチュウ、デカさんと、当時超有名な山男たちであった。皆、乱暴で曲者のようでも、心配りの行き届く礼儀正しい、優しい見掛けに寄らないダンディで親切な紳士であった。全国的に名の通ったドンちゃんこと加藤幸彦さん、成城大卒で東レに入社し、名古屋に来て仲間に入った橋村一豊さんに言わせれば、アイガー北



左 鈴木氏 右 福田氏

壁に日本人単独登攀したピンちゃんこと高田光政さんは氷壁登りの名人。深田久弥氏のシルクロード探検隊に加わったデカさんこと鈴木重彦さん、南山大山岳部のセコさんこと中世古さんの話などは山を知らない私にとっては大変興味深いものばかりであった。いつも出される写真を見て即座に山の名前と撮影場所を当てる中世古さんにはびっくりした。

そんな仲間たちであったが特に付き合っていたのが大学医学部同級原武君、そして第2代支部長で名大学生部職員で世話になったクニさんこと石原國利さん、鈴鹿山岳会の佐野さんそして国宮さん、新見さん、坂井さんたちであった。

原君は、『医学部入学ではなく山岳部に入学したんだ』と言って、いつもいっぱい鋏を打ったごつい山靴を履き滝子の校舎をごつごつ音を立てて歩き、体にはザラザラの麻のザイルを巻き付けて、暇があればアマニ油を塗りこんでいた。学校を離ればガールフレンドとも付き合い、理論が立ち、文章や絵もうまく、先を行く早熟な友達であったが入学2年後の春休み、鹿島槍北壁で氷塊が直撃して遭難死してしまった。その後の人生に大きな影響を与えてくれるに違いない友達で痛かった。

錦の本通り近くにカメラ店を営んでいたアイシンフォートの店主吉川さんも人柄がよく近くの裕福な旦那さんたちが集まっていたライカとかハッセルとかの話題が飛び出す。店には実物も並べてあり面白かったのでよく顔を



ワキタギャラリーにて

左から黒宮、坂倉、鈴木、福田、船橋の各氏

出していた。本町筋の旦那衆のライカだとかニコン、キャノンなど高級カメラの話題が面白かった。鈴木さんが親しくしていた人に中日新聞写真部の坂倉さんがいた。新発売の国産カメラの情報をいち早く教えてくれた。

持ち寄った写真を見せあっているうち、この仲間で写真展をやってみよう、と話が弾んだ。上前津のワキタにも出入りして展示会会場担当の坂下さんと知り合い、プリント印刷は坂倉さんご愛顧のハイドカラーに。丁度、東海支部に入会した中日新聞の石原俊洋さんが加わり、写真展の外堀が埋められた。

鈴木さんと齋さん、佐屋の旧家黒宮国男さん、稲武の旧家新美洋右さん、第9代支部長でエベレスト登山遠征隊長の寺西申生君、佐野孝さん、鹿島山荘の生田浩君たちと御嶽スキー場が出来てからナナカマドの紅葉がきれいでもよく写真撮影に行ったが、写真もたまりいよいよ写真展の話が具体化してきた。写真の題、トリミングは坂倉さんに見てもらい、数十枚位の規模でまずワキタで開くこととして展示場担当の坂下さんに頼み、展示写真は全紙とパネル張りカラーと決めた。出品料を一点5千円徴収して、不足分は仲間でカバーし合うこととした。そのくらいは仕様がないと覚悟を決めた。事前予想では赤字でも坂倉さんのお陰で中日新聞社とも共催となり、新聞やテレビにも宣伝してもらい、1987年の第1回東海岳人写真展は成功裏に始まった。毎年は少しきついで2年に一回の開催とした。案内のはがきにキャッチコピーとして『山と自然のパフォーマンス』とフレーズを入れた。厳しい登山をして限界の場で撮った写真ばかりでなく、優しい自然の姿を撮ったネイチャーポートの参加も目論んでの鈴

木さんの考えだった。展示場へ来られた皆さんに東海支部は楽しい行事もしているのだと理解されたはずである。

写真展の評判も良く軌道に乗り、中日新聞の共催を続けてもらえるなら東海支部の正式行事にしてもらえないかと要請したら正式事業に格上げされた。そして約10年後の第6回から場所をワキタから変えて中区役所ホールへと移すことになった。ワキタの時は口伝で申し込めば坂下さんがほとんどやってくれたが、今度は一般市民と同じく場所取りの抽選会に出て実績を問われ、籤引きで決まるので担当は気がでない。案の定くじを引いた人は浮かぬ顔で帰ってきた。聞けば、希望の大きさの部屋は取れず大きな部屋しか残っていない。どうしようかという返事であった。規模も拡大したいので心配しないで大きな部屋を採ってきて下さいと励ましたら一番大きな部屋を採ってきた。

かえって、皆のやる気が出て会員ばかりでなく、一般の人達の応募もあり数はそろった。運営では会員が懸命に協力してくれて、会全体のテンションが上がり各自がパネルの設置や会場設営を工夫相談し、チームワークがしっかりできた。

東海支部も発展途上で、尾上支部長のもとと拡大路線をとり、『支部友』制度が始まっていた。これは後になってみると正解であった。支部友も会員と正会員と同数位に増えて、厳格な山登りばかりでなく、山を楽しみ景色に癒されて写真撮影やスケッチを好む人が多く入会してきた。目の前の景色に感激しシャッターを押した写真が、全紙に拡大されて写真展の会場に展示される。たちまち東海支部の事業として認知されていった。

忘れてならないのは、第8回の写真展に当時の皇太子殿下のお撮りになった写真をお借りすることができ展示したことである。また、田辺治隊長率いるローツェ南壁写真を案内のカード写真に使用した。これは大評判となり、3750名の来場者があった。同時に開催された他の展示会の方からも多数の観客が流れて喜ばれ、楽しい思い出である。

岳人写真展は、その後世話人は引き継がれて、今年で17回とのこと。安定した人気も根付いているから、開催当時から拘わった者として今後も長く続いてほしいと思う。

## すばらしき岳兄たち(3)

支部員 杉浦吉治

石井明雄さんは、東京都東大和市在住で、定年までは大手自動車メーカーに勤めておられた。石井さんに初めてお目にかかったのは、2001年キリマンジャロ登山のときであった。背が高くスリムでありながら、がっちりした体格で、かなり山歩きをしてこられたようだ。

お互いに登頂の成功を喜びあった下山途中でのことである。60歳の定年を翌年に控えていた私に、「杉浦さん、サラリーマンは定年後の10年が〈人生の花〉ですよ。続けて仕事もあるでしょうが、お金のために貴重な時間を無にしないように」というアドバイスをいただいた。

ところで、石井さんはキリマンジャロ登山をされる4年前の63歳の時に、「定年後の会社暮らしのアカ落とし」として、驚くことに九州最南端の佐多岬から北海道宗谷岬まで107日間かけて3138kmを完歩、という快挙を成し遂げられている。

帰国後、『日本列島縦断紀行—これ一念！山・海・原野・くるま道 歩き続けて一人旅 出合触れあい3000キロ—』という実に楽しい旅行記を贈っていただいた。読ませていただき、キリマンジャロで「サラリーマンは定年後の・・・」というアドバイスをご自身が実践されていることがよく理解でき、納得した。

石井さんのアドバイスどおり、私は満60歳ですべての職務を辞した。そして、家内とこれまでに30数回にわたる世界の高所登山や撮影トレッキングを楽しんできた。やがて八十路を迎える年齢になった私は、石井さんから誠实的確な、また貴重なアドバイスをいただいたことを改めて感謝している。

また、石井さんは08年には、74歳で四国八十八霊場を巡る1200kmを1日も休まず44日目に結願をされた。それをまとめた全126頁にわたるレポート『四国八十八霊場 歩き遍路道中記』（写真）を贈っていただいた。初日から結願の44日目まで、実に詳細に記録されていた。レポートは、石井さんのお人柄が滲み出ており、宗教に縁のない私でも読んで大変感動した。



石井さんは、これまでにかんが発症や膝、腰を痛めながらもそれを克服されて、海外の高所登山を何度も楽しんでこられた。13年には、七十歳代仕上げの登山にモロッコ王国のアトラス山脈を選び、「富士より高い十国十座登頂」の目標を達成された。

さらに、石井さんは80歳の14年10月には、晴海埠頭から出発して、沖縄本島を徒歩で縦断されるといふ2週間の旅をされた。この旅で、先の日本列島縦断

の旅と併せて、名実ともに「日本列島縦断の完結」を成し遂げられた。

この沖縄の旅は、15世紀からの琉球王国以降の歴史を辿り、「太平洋戦争にまつわる沖縄の姿を、道を歩き、人に触れ、悲惨な戦跡に立って感じとれたら」との思いを目的にした非常にシリアスで味わい深いものであったようだ。

贈っていただいた『沖縄本島徒歩縦断記』（写真）は、石井さんの真摯で思いの籠った実に読み応えのある旅行記であった。

まさに、石井さんは「スーパー・シニア」である。

なお、石井さんは毎年の日本山岳写真協会展（東京都美術館）にご来場いただき、私の作品に対して遠慮のない辛口の批評をしてくださる誠にありがたい岳兄である。これからも健康に留意されて、山・自然を楽しんでいただきたいものである。



# 委員会報告

【猿投の森づくりの会】（会のブログより）  
定例作業報告 5月22日（土） 晴れ時々曇り  
県有林やまじの森にて  
雑木林グループ 参加者 10名

今日はシイタケ栽培の本伏せ作業と朴の木  
駐車場区域の整理伐作業です。



前回整理した栽培地へ原木の搬入作業と本伏せ柵の作成を同時進行で進める。菌打ちした原木約60本を人力で仮伏せ地から移動し、柵木に順番に立てかけ本伏せ作業も終了し、収穫時期が来るのが楽しみです。

朴の木駐車場区域にて作業するも

前日の豪雨もあり沢付近はかなりぬかるんでる状態で、管理道沿いに除伐するも果てしない広さに「猿投」の偉大さに驚きである。

整理した区域の出来栄えに見とれながら、作業の合間に見つけた「ササユリ」のつぼみを数株見つけることが出来、こちらも開花が楽しみですである。

人工林グループ 参加者：7名



前回に引き続きベンチの作成を行いました。

Mさんは早々と素晴らしいベンチを完成しました。二人組は準備万端道具

を用意して段取り良く正確に加工していきもう少しです。他の人たちもそれぞれ自分流で奮闘しました。次回の完成が楽しみです。

ササユリが一本蕾をつけていました。

## 自然観察会

5月12日（水） 観察会の下見会 天気 曇り  
県有林やまじの森にて

参加者 自然観察グループ4名

15日の観察会は、愛知県に新型コロナウイルスによる緊急非常事態宣言が出され、郊外であるやまじの森への人の流入が多くなること



ハンショウヅル



オオバウマノスズクサ

予想されるため中止とした。一か月空けると自然の移り変わりも大きいので下見会だけは静かに行った。

林道を三又までゆっくり歩いたが多くの樹の花、草の花を見ることができた。特に注目を集めているのがカワセミコース入口付近の林道沿いのハンショウヅルである。釣鐘型の赤紫の花を半鐘にたとえられた蔓性低木である。これを目当て訪れる人も多く、当日も散策している人に保護をお願いされた。

大曲のところのオオバウマノスズクサも沢山の花を付けていた。サキソフンのような花の形が面白い。ジャコウアゲハの食草となるため卵や幼虫がいないか確認する人も多い。



ジャケツイバラ

瀬戸市の名木指定にされているヤマザクラの向かい側のジャケツイバラも見事に花を咲かせていた。ゲート手前にもあるが

以前のようないが。三又付近では、高い枝にミズキ、そしてフジの花も見られた。

その他に花の開花がみられたもの

◆木本類 コゴメウツギ、ムベ、タニウツギ、ハリエンジュ、コツクバネウツギ、サワフタギ、ツリバナ、カマツカ、カインサラサドウダン、ニガイチゴ、ヤマツツジ、モチツツジ等。

◆草本類 タツナミソウの仲間、ニガナ、オニタビラコ、トウバナ、ニョイスミレ、スルガテンナンショウ、ミツバツチグリ、イワニガナ、ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴ、ヒメアギスミレ、スズカカンアオイ、チゴユリ、タチドコロ等。

## 私の「北鎌尾根」

支部友委員 池戸美恵

「一緒に行かない？池戸さんも」忘年会で通りがかった私にI氏が声をかけてくれた。「槍の北鎌。瀧根さんをお願いしたよ…」。I氏はにっこりと微笑んだ。後日、今回の発案者のT氏から具体的な行程や費用のメールがきた。槍ヶ岳の北鎌尾根。いろいろ調べてみて、難しいのはルートファインディングで、あとは、体力と岩場の技術。夏までにトレーニングをしたら何とかかなかな…。若干の不安はあったが、参加させていただき旨を返信した。メンバーも増えたり、減ったりして、最終的には瀧根さんを含め、メンバーは6名となった。

年が明け、実施日と予備日が決まったが、5月になり、コロナによる外出自粛ムードが日本中に広がり、実施できるのかどうか、先が読めなくなった。

## 山行日までの体調管理

夏になり、コロナは相変わらずだが、突然私の体調が悪くなった。普段の生活もままならなくなり、予定していたいくつかの山行の欠席が続いた。8月の今回のメンバーで行う御在所トレーニングも参加できなかった。もう駄目だと思ひ、泣く泣く、北鎌不参加をメンバーの皆さんに伝えた。ところが、ある日ふと、体調が良くなったかな、と感じた。

早速、登山を開始。日帰りの短いコースから。荷物も少しづつ重くした。日帰りの山行しか行けてなかったので、翌週はジャンダルに行った。北鎌は西穂～奥穂がスイスイと行けるぐらいでないといけない、と何かで読んだ記憶があった。実際はスイスイではなかったし、体調もまだまだだったが、久しぶりに縦走ができて、手ごたえを感じた。

## 待望の北鎌尾根へ

山行は9月の下旬となり、装備も少し見直した。シュラフを夏用からスリーシーズン用に、フリースをダウンに。毎日、天気予報や天気図を見た。気温はどんどん低くなり、山行前日の天気予報に雪マークがついていた。びっくりして、さらに防寒対策をした。瀧根さんは夜に雪が降っても、行動時間には雪は解けているから大丈夫だと言われたので、少しほっとした。荷



槍の頂上にて

物は最低限、アルコール類も今回は我慢した。

初日は馬場平でテント泊だったが、夕食時に突然の大雨が降ってきて、慌ててテントに潜り込んだが、雨は止む様子もない。そのまま寝ることとなったが顔に水滴が落ちてきて、まったく眠れない。I氏も我慢できずにシュラフを抱え、水濡れの心配のないトイレに逃げ込んだ。翌朝様子を見に行くと、I氏はなぜか女子トイレで寝ていた。二日目は水俣乗越からのザレの激下りで、何度かズルっといき、下りの下手さを実感した。北鎌沢出合は、いつも水があるらしいが、今回は全くなかったので、途中の左俣との分岐で明日の飲料用の水分と共同用の水分を補給した。ずっしり重くなったザックを担いで、北鎌のコルに15時前に到着した。

三日目、いよいよ本番である。登攀要素の多いコースだが、必要箇所ではロープを出してもらい登りはなんとかこなしたが、落石やザレたトラバースでは身の縮む思いをした。

独標からはどんどん近づく槍ヶ岳に励まされながら、最後まで緊張感を持ちながら登った。垂直に登って、ふと平らな山頂に着いたときは、あっ、と気が抜けた。そして、安堵と達成感でじわっと涙が出た。ゴールだ。ここを目指して、ずっと歩いてきた…。一緒に苦労を分かち合ったメンバーの皆さんと握手し、写真を撮った。

「山は弱点を教えてくれるけれども、弱点を見逃してはくれない」後日、瀧根さんから頂いた言葉の意味を噛みしめて、自分の未熟なところ、足りないところを克服しながら、これからもまだ行っていない山に行ってみよう。

## 同好会コーナー

### 古道塩の道

山中光子

いにしへの塩の生産から人々に届ける古道を調べた私達にとって大きな忘れ物があった。

日本人の多くが崇める伊勢神宮。清めるために重要な位置を占め、神にお供えする「塩」。全くの認識不足に気が付き伊勢神宮へと向かい塩を運んだ道を調べ始めたが、神宮へのお参り、観光なども兼ねて狭い地域ながら結構時間がかかった。

場所は伊勢市二見から始まる。決して山道ではなく、海沿いの住宅街から歩きはじめる。周りは地盤が低く津波にそなえ、あちこちに鉄筋作りの避難所が見える。

倭姫命（やまとひめのみこと）が天照大神のご鎮座される地を求めて、伊勢の海辺を歩かれた折、この浦の素晴らしさに二度振り返られた伝説から二見の地名が付いたとも言われる景勝の地。土地の神である佐見都日女命（さみつひめのみこと）が、倭姫命に堅塩を奉納これに喜び堅田神社を定めた。佐見都日女命が堅塩を奉納したのは、自ら開拓した土地を差し出す事の抵抗だった。これが二見浦で内宮、外宮へ納める御塩を生産する起源となった。

まずは塩の基本の塩田を探す。この地は五十鈴川沿いにあり、以前は御塩殿神社の裏手の海岸で海水を採取していたが、年々の地盤沈下と海蝕により現在この地、堅田神社に移った。綺麗に掃き清められた白い砂利道から手前には、作業小屋らしきものがあり、松の木と並び鳥居、その先に海水の干満差を調節する「ユリ」と言う用水路のような溝に囲まれた塩田が広がる。この地は満潮時には自然に海水が入るようになっており、海水と五十鈴川との水が混ざり、きめ細かい微妙な塩ができるとの事（入浜式塩田）。



塩田



御塩殿神社

夏の土用時期に作業を1週間から10日掛けて行う。その塩水を御塩殿神社へと運ぶ。神社の中は広い敷地に年輪を感じる木々で囲まれ、御塩汲入所、御塩焼所とそれぞれ建物があり、最後の荒っぽい塩を俵に詰め御塩倉に貯蔵する。



左) 御塩焼所 右) 御塩汲入所



出来上がった塩を型に詰める

毎年10月5日に御塩固めの安全と日本の塩業発展の祈願が行われ、その後5日間にわたり土器に入れ固める「御塩固め」を行ない、固められた御塩は神宮へと運ばれる。御塩を運ぶ道は、御塩殿神社から「御塩みち」の小さな木札が掛けられているという。年数が経っていて心配したが、木札を探して歩く。数はかなり減ってい

るようだ。神さまに供える御塩道は決まっているはずだ。



「御塩みち」の木札



神宮御園

御塩殿神社から県道に出て、対岸の旧道へと進む。暫く歩き五十鈴川の橋が見えだす頃、神宮御園が現れる。

ここは神宮の御料の調達地となり、かなり広い敷地に神宮に供える50種類程の野菜や果物等を育てる場所。一般見学は勿論、立入禁止。ちなみに神饌とはご飯三盛、鯉節、魚、海藻、野菜、果物、御塩、お水、御酒三献と品目が定められ、それにお箸が添えられるとの事。



橋神社



二軒茶屋餅

神宮御園を過ぎ五十鈴川へと向かう。ここは昔汐合川と呼ばれ、旧道を走る電車（神都線）があったと聞く。川岸には線路を支えていた頑丈な石組みが残る。

旧道はくねくね回りながら、橋神社へと着く。ここは御塩殿神社から運びだした御塩の荷物をはじめ降ろす事のできる休憩場所。御塩の重量もさることながらかなりの距離を歩いている。近くには勢田川が流れ、以前は水上輸送や参拝の舟客等を降ろし近くには、2軒の茶店があった。現存している1軒は木造で、創業が大正年間（1575）二軒茶屋餅で茶店の雰囲気を残し営業中。ここから少し離れた所にも川の駅。勢田川沿いは、昭和49年の集中豪雨をきっかけに勢田川改修工事案が持ち上がり、右岸の倉等取り壊される事となった。米問屋、酒問屋等の歴史的景観を守ろうと町並み保存運動が行われたが、右岸では100軒以上の倉や町家が無くなってしまい、左岸では川の管理道路が出来たため、倉に舟を横づけしていた川沿いの景観は大きく様変わりし、今は伊勢河崎まちづくりとして貴重な歴史景観を守っている。



外宮の御塩橋とその奥の門

二軒茶屋からは勢田川に掛かる何本かある橋でも、指定されている清浄坊橋を渡る。その橋のたもとに銭湯がある。神宮にお参りする為に、体を清める習慣があり町なかでも銭湯をよく目にした。橋のたもとの銭湯は、主人が毎朝夕二見の海水を汲み、海水を沸かし海水風呂として提供している。

繁華街に出て、五十鈴川駅踏切を渡ると外宮への案内が出る。外宮に入り職員用の駐車場の所に御塩橋が見える。その先は、勿論立入禁止。門の中に御塩は納められる。

おごそかな雰囲気塩の道を歩きながら追いかけたが、時代が変わり現在は御塩田で作られた御塩は、徒歩では無く軽トラックで運んでいる。

スケッチクラブ 村中征也  
 〈第7回作品展〉

6月に延期後も、新型コロナウイルスの状況は改善せず、緊急事態の推移も見通せません。「やるからには多くの方に観て頂きたい」「引き返す勇氣」…皆さんの声に押されて、下記のとおり再延期させて頂きました。

会期：11月16日(火)～21日(日)

\*18日(木)は休館日

時間：9:00～17:00

\*初日は13:00～ \*\*最終日は～15:00

会場：名古屋市の市政資料館・第5展示室  
 地下鉄市役所駅2番出口を東へ8分



『乗鞍高原まいめの池』

安藤忠夫

山の絵の他、会員が描き溜めた多彩な作品を展示します。

東海支部の皆さんには、知人の方々をお誘いの上、ご来場下さるようご案内させて頂きます。

〈活動状況〉

石井 仁代表による2月からの新年度、張り切ってスタートしましたが、作品展・白壁街歩きスケッチ等延期を余儀なくされました。9月には「紅葉の木曾駒高原・濃が池」を予定してありますが、状況の推移を見極め、進めて参ります。「山好き・絵好きの集まり」に興味のある方、気軽に声を掛けて下さい。

代 表：石井 仁

事務局：村中征也 岩田智与子

東海支部俳壇

西山秀夫

斑雪見し湿原の枯野かな

浅春や風強く吹く田代山

笹平なる谷間(たにあい)の春田かな

3月23日 天皇誕生日

弥栄を願ふ天皇誕生日

3月21日 深田久弥命日

悠々とユーラシアの夢九山忌

霊峰に命をつなぐ百千鳥

名ばかりの見晴台や霾れり

4月3日 大根山 シデコブシ群生地

山奥の姫に会うごとシデコブシ

草餅を食ふ山なみを眺めつつ

アセビ咲く頂に立ち睥睨す

水温むせせらぎに手を浸しけり

4月10日 山岳古道WEBミーティング

春宵やカメラを前にウェブ会議

春長けて人あふれける奥三河

辛き日々忘れさせてよ名残り雪

春日の差し込む雑木林かな

5月3日 八曾山を歩く

風薫るこもれびの山路を行く

5月5日 立夏

悲しみの遭難さはに夏来る

# 支部友コーナー

## ◆支部友委員会山行計画(令和3年10月~12月分)

申し込み開始は山行日の3か月前から  
締め切りは各山行日の1ヶ月前です。

10月16日(土) ☆☆  
山域: 奥美濃 山名: 三周ヶ岳・夜叉が池山  
リーダー: 高松信治

10月17日(日) ☆  
山域: 奥美濃 山名: 高賀山  
リーダー: 今津英一朗

10月30日(土) ☆  
山域: 各務原 山名: 金比羅山・明王山  
リーダー: 近藤政仁

11月6日(土) ☆☆  
山域: 三河 山名: 鳳来寺山  
リーダー: 高松信治

11月13日(土) ☆  
山域: 瀬戸市 山名: 岩巢山  
リーダー: 水野猛志

11月23日(火) ☆☆  
山域: 湖東 山名: 日本コバ  
リーダー: 金谷正起

11月27日(土) ☆  
山域: 岐阜 山名: 納古山  
リーダー: 近藤政仁

12月4日(土) ☆  
山域: 南木曾 山名: 賤母山  
リーダー: 金谷正起

12月11日(土) ☆☆  
山域: 御在所・伊船  
山名: 鎌ヶ岳・馬の背尾根  
リーダー: 磯部 隆

12月12日(日) ☆  
山域: 鈴鹿 山名: 竜ヶ岳  
リーダー: 今津英一朗

支部友会員数 令和3年5月末現在 49名

## 次回支部友ミーティング

### 開催内容のお知らせ

第46回「山に魅せられて60年

～なぜ、人は、山に登るのか～」

日時: 8月10日(火)19:00~21:00

場所: OMCビル4F講堂

講師: 尾上 昇 氏

(元日本山岳会会長

前東海支部支部友会委員長)

**山行対象者** 支部友会員及び支部会員

**申込み方法** ・支部友会員は申込締切日までに、  
各山行リーダーが示す方法で申し込む。

・締切日 原則山行日1ヶ月前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)

・支部会員は申し込み締切日の翌日以降山行のリーダーへ問い合わせる。

・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

### リーダー連絡先

尾上 昇 FAX: 052-832-3878

メール: onoe@onoe.co.jp

金谷正起 携帯: 090-9931-3600

メール: kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp

榊 将美 携帯: 090-7237-4410

メール: m.sakaki@minds-consulting.jp

村瀬恭平 携帯: 090-4186-9876

メール: hoshizakari@docomo.ne.jp

田中 進 携帯: 090-9191-8666

メール: t-susumu@peace.ocn.ne.jp

今津英一朗 携帯: 090-2616-7549

メール: imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp

磯部 隆 携帯: 090-9180-7245

メール: takass@yk.commufa.jp

高松信治 携帯: 090-3156-5268

メール: takama2nobu3@yk.commufa.jp

松本陽子 携帯: 090-7859-4031

メール: yo-kom@nifty.com

水野猛志 携帯: 090-5866-3781

メール: r34668@bma.biglobe.ne.jp

近藤政仁 携帯: 090-2183-8125

メール: vft55ud55@gmail.com

# 60山ラリー登頂経過報告

60周年記念国内事業担当 中村康秋

## 60山ラリー状況(5月25日現在)

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が再度発令した中、60山ラリーの進捗も困難かと思いますが、奮闘され記録を伸ばしている方も大勢いらっしゃいます。

前回お知らせから順位の変動もございました。あと数ヶ月ですがまだチャンスがございます。始めて間もない方も一つでも多く登頂を目指して頑張りましょう！

### 1、コース別達成者数

## 進捗状況(下記表参照)

5/25現在、登録者数は115名となっています。現在のコロナ禍では難しい状況下ではありますが、今後緊急事態宣言が解除されることを願い、夏の登山シーズンに向けて皆様残りのラストスパートをかけて一山でも多く達成して頂く事を期待いたします。又皆様の安全登山を願います。

※お願い：まだ登頂登録をされていない方は早めの登録をお願いします。

全コース達成者	1名(栗木洋明)
100高山	2名(鈴木愛子、栗木洋明)
一等三角点	3名(栗木洋明、山田明美、石井 仁)
愛知県の山	25名(栗木洋明、山田明美、石井 仁、前田隆久、前田芳子、熊谷美喜子、天野叔明、榊 将美、大島 巖、井上寛之、酒井大輔、磯部 隆、遠藤 忍、石田 誠、伊与田玲子、川崎禎明、川崎明子、豊田由香、川瀬眞知子、川島節子、杉村正博、滝 清子、水野猛志、堀端静夫、石田伸郎)
岐阜県の山	6名(栗木洋明、遠藤 忍、山田明美、大島 巖、酒井大輔、木村孝保)
三重県の山	3名(栗木洋明、石井 仁、山田明美)
静岡県の山	3名(栗木洋明、石井 仁、山田明美)
チャレンジ	44名(栗木洋明、山田明美、石井 仁、遠藤 忍、前田隆久、鈴木 浩、熊谷美喜子、酒井大輔、榊 将美、前田芳子、堀端静夫、水野猛志、磯部 隆、光崎 晋、伊与田玲子、石田 誠、近藤政仁、天野叔明、井上寛之、横地達夫、福井雅子、木村孝保、伊藤 稔、大島 巖、中島美枝、川島節子、鈴木愛子、川崎禎明、川崎明子、倉橋智司、大倉昌美、杉村正博、豊田由香、桜井恵美子、川瀬眞知子、鈴木慎吾、松尾久美子、鬼頭則俊、滝 清子、森本真由美、石田伸郎、六郷孝也、山田昌子、池戸美恵)

### 2、コース別登頂数ベスト5

100高山	鈴木愛子(63)	栗木洋明(60)	山田明美(49)	堀端静夫(29)	中野八千代(20)
一等三角点	栗木洋明(74)	山田明美(69)	石井 仁(60)	遠藤 忍(45)	堀端静夫(34)
愛知県の山	栗木洋明(125)	前田隆久(108)	山田明美(107)	天野叔明(100)	石田 誠(98)
岐阜県の山	栗木洋明(77)	大島 巖(66)	酒井大輔(66)	山田明美(65)	遠藤 忍(65)
三重県の山	栗木洋明(84)	石井 仁(63)	山田明美(60)	酒井大輔(33)	石田 誠(27)
静岡県の山	栗木洋明(73)	山田明美(60)	石井 仁(60)	川崎明子(14)	酒井大輔(13) 近藤政仁(13)
チャレンジ	栗木洋明(435)	山田明美(364)	石井 仁(247)	酒井大輔(185)	遠藤 忍(184)

# 60山ラリー登山記

支部友 中島美枝

## 欲張って真夏に4座

支部友山行へ参加した際に、山行リーダーよりこの「60山ラリー」の告知と共に参加も進められ少し迷いました。なぜなら近くの山で低山ばかりかと思ったからです。

迷いながら申し込みをして数日後に届いたリストを見て、まず山の数の多さに驚きました。そして、私では難しいと思う山も沢山あり迷っていた事も忘れ数日時間があればリストを見て、手持ちの本やネットで検索しながら行きたい山を選び自分の「60山ラリーリスト」を作り、いつも一緒に行く仲間と相談しながら次はどこに行くか決めて行きました。

この山選びの楽しいこと！

地形図を見ながら「この山とこの山は1日で行ける」「今日はピークハントに徹して車で移動しいくつか登ろう」など考えているとあつという間に時間が過ぎてしまいます。

いくつかの山行の中でも一番思い出深い山行は昨年8月下旬に行った飯盛山・黍生山・焙烙山・六所山です。この4座は豊田市にあり行くにもそれほど時間もかからず早く出発すれば大丈夫だと軽く考え、1日で4座を稼げる、どの山も低山で登りやすい、登山口付近まで車で行けるなどの理由で暑さを気にせず決行しました。

はじめの2座焙烙山と黍生山は、歩き始める時間が早いため景色を見る余裕もあり展望台に登って写真を撮り、話も弾み楽しかったのですが、3座目の黍生山へ向かう途中で道路が渋滞し移動に時間がかかってしまいました。その間車中はエアコンのおかげで快適でしたが、体はすっかり冷えてしまい車から降りた途端に汗が吹き出します。時間も11時半でこの日は各地で40℃を超える猛暑日。

駐車場から登山口までの5、6分を歩くだけで汗は滴り落ちます。

黍生山は頂上まで距離も短く標高も375mなので普段であれば40分程で登れる山ですが、冷え切った体で外気温は40℃近く、そして3座目。いつもはかなり賑やかな私達ですが、ひたすら無言で歩くだけでたまに出る言葉は



「暑い〜」「風がない〜」「どうしてこんなに日が照るの〜」と文句ばかりです。ようやくたどり着いた頂上は陰があり風も通る。この時ほど木陰や風のありがたみを感じたことはありません。ここで昼食をとり元気を取り戻し下山はワイワイと話しながら車へ戻りました。この時、持参した2ℓの水は全て飲みきってしまい自動販売機飲み物を買って4座目へ向かいました。

4座目は香嵐溪にある飯盛山です。この山は観光地なので整備された階段を登って行きます。階段は疲れた体にはかなり辛く、すぐに頂上のはずが中々着かず、また無言で歩くだけ。ようやくたどり着いた頂上でした。

こんな風に60山ラリーにとりつかれたように登っていますが、色々な勉強もでき60山ラリーに感謝します。この期間が終わってもリストにある山にチャレンジしようと思います。





# 会 務 報 告

## 【2021年2月常務委員会】

日時：2月24日(水)19時～(zoomとの平行開催)

1. 支部長挨拶(高橋)：非常事態宣言の中今後、webで出来る事はwebを活用していきたい。
2. 総務委員会(今津)：①夏山フェスタの協力依頼について中部経済新聞より来ている。開催日時は6月5・6日。  
②5月16日総会について会員議決は葉書とする。内容は、会計報告、事業報告、事業計画、新組織図で、概ね3月末日位までに各委員会は提出願いたい。
- ③来年の新年会は今池のガスピルを予約した。
- ④猿投の森音楽祭の申請書の進め方について猿投の森づくり委員会の報告時に“緑水”の補助金の申請など含め打合せをする。→それについては猿投の森づくり委員会とは関係なく支部で行ってほしい旨、和田委員長より報告あり。
- ⑤6月15日の技術向上委員会による清水氏の講演は日程・会場等を押えた。
- ⑥今後の購入装備は装備委員会と相談する。
3. 愛知学連(鈴木愛)：山岳保険の説明について講習会があった。興味のある人は鈴木さんに連絡、資料を取得して下さいとの事。
4. 支部友委員会(金谷)：1月の山行報告は報告書の通り県内分について実施した。夏山計画については承認済み。冬山登山の体験登山は3月7日に霊仙山にて3名で行う。
5. 山行委員会(鈴木慎)：1月2月は県内山行を除いて中止。4月以降は議事録の通り予定している。又、女性リーダーの育成として、大日ヶ岳にて4名で雪上訓練、弱層テストを実施した。リーダー会議は3月23日に行う。
6. 猿投の森づくり委員会(和田)：作業・行事は全て実施。なごや環境大学の講義は毎月20名程の参加あり。2月27日にはなごや環境大学の講座で「間伐材を使ったシイタケの植菌作業体験」を実施する。又4月から上高地の除伐作業を予定している。
7. 東海ユース(服田)：会員動向は1名退会で現在15名。定例山行は、五井山は2月計画から4月に変更。運営委員会は3月7日実施計画。4月山行ミーティングは3月26日ZOOMで計画。
8. 支部報編集委員会(星)：No165号は3月末に発送。原稿締め切りは2月27日迄で、遅くとも3月10日迄には提出の事。

9. 海外登山委員会(高橋)：山田利氏からネパールヒマラヤの“クーンブ山群・カンチュンナップ北壁”の登山計画書が出ている。未踏の山で10月上旬から11月中旬迄の計画。メンバーは2人で支部としては全面支援していきたい。
10. 青年部(藤寄)：荒木委員長の代理報告。1月は個人山行が2件。当面は個人山行が中心。
11. 学生連盟(川口)：非常事態宣言のため現在は中止。高橋支部長から新人勧誘を二桁目指す様意見があった。
12. 登山学校委員会(榎)：山行報告は1月・2月の計画は中止・延期にした。2月の計画は、緊急事態宣言化の山行計画(県内の山)に変更して終了。同窓会の山行計画(竜が岳)は2月から3月に延期して承認。審議事項として第5期登山学校運営について委員長を服田氏に内定し授業カリキュラムとともに承認された。
13. 自然保護(井藤)：今期計画は全て終了した。
14. ボランティア委員会(前田)：春のブラインド登山は5月8日に決定。定員は18名。視覚障害者6名に対して同行者は12名で計画。SON愛知との登山について春から秋に変更。愛知県内の低山とし人数を制限して行う予定。タンポポ登山に関しては日帰りでの計画案として猿投山を候補とする。
15. 遭難対策委員会(山田)：コロナ禍、山行が減り登山計画書の提出も例年1000件から650件と減った。今年2件の事故(タンポ・藤原岳)が起きた。登山計画書の提出を徹底する様にしてほしい。今期も全山行の3分の1は計画書の提出がされていない。
16. 写真展実行委員会(坂本)：2月2日から7日迄市民ギャラリー栄で開催した。952名来場者があった。出展数は78点。出展参加者数は63名。
17. 技術向上委員会(清水)：南アルプス遭難事故について遭対の活動の議論をした。又、6月19日には清水委員長による「岐阜百秀山」出版講演を行う予定。  
出席：高橋、榎、今津、佐野、井上、鈴木慎、鈴木愛、和田、坂本、西山、山田、千葉  
リモート参加：星、金谷、服田、清水、井藤、前田、藤寄、

## 【2021年3月常務委員会】

日時：3月24日(水)19時～(zoomとの平行開催)

1. 支部長挨拶(高橋)：乗鞍岳の雪崩について報告。購入したビーコンの利用を促す。
2. 総務委員会(今津)：総会について①新役員案として山田副支部長の退任の報告がされ、後任には服田氏に決定。②組織図は装備委員会と古道調査委員会を総務グループの中に入れ、猿投の森づくりの会は独立した組織とした。③支部規約の改正はない予定。
3. 愛知県岳連(鈴木愛、欠席)：春山の公式山行計画があれば4月14日までに計画書とリーダーの参加可否について鈴木まで連絡の事。読図講習会の案内が報告された。
4. 支部友委員会(金谷)：2月・3月の山行報告は報告書通り順調に終了した。①支部友ミーティングは4月13日に実施する。②朝明ミーティングは今年も中止。③体験登山は、霊仙山を中止して、猿投山に7名で実施した。
5. 山行委員会(鈴木)：山行報告は議事録の通り。リーダー育成について来年より新たに豊田さんと大橋さんが新委員に予定。又、リーダー会議は3月23日に実施した。
6. 亀の会(加藤)：会は、後期高齢者が2/3を占めており、この層を中心にした活動をしていく。山行計画としては、月例山行と自主企画山行と歩こう会の3本建てで行う。①3月29日は“ゆっくり山行”を行う②4月22日に卒寿・米寿・傘寿山行を行う。この件について新聞社への記事依頼を支部にお願いしたいとの事。
7. 猿投の森づくり委員会(和田)：3月末日まで、なごや環境大学の講義が続いている。間伐作業は3月まで行い秋まで休止する。5月10日から上高地山岳研究所の除伐作業をする。
8. 東海ユース(服田)：6月27日は西台山の道迷いの検証を行う。令和3年の体制が決まり報告された。
9. 青年部(荒木)：個人山行中心で行われた。4月3日の合同雪上訓練(猿ヶ万場)は6名の予定。
10. 学生連盟(草野)：4月から新入生勧誘に合わせて易しい低山山行から始める。
11. 登山学校運営委員会(榊)：山行報告は2月3月とも全て終了。同窓会による沼津アルプスも終了。大日が岳も終了。指導員研修は大日が岳で4月に行う。装備委員会への委員は服田氏に決まった。
12. 自然保護委員会(井藤)：5月24日に霧訪山観察山行の予定。又、1泊2日で秋の観察

- 山行を信州で行う。又、猿投の森の動物調査を引き続き行う。
13. ボランティア委員会(前田)：支部計画の天下峰は終了した。春のブラインド登山は障害者6名で計画。タンポポ登山は裁判所と調整して決定する。支部員対象の登山は4月24日 or 25日に予定。次年度予定は承認済。
  14. 支部報刊行物編集委員会(星)：165号は3月末に出来上がり発送する。インドヒマラヤの本が出来た。100部限定。価格は15000円で予定をしている。
  15. 遭難対策委員会(山田)：①登山届は95件で1月より増えた。②個人情報漏れないようにメールアプリを変えた。③遭難対策の人員の為にメッシュのベスト(JAC ネーム入り)を購入。④遭対委員会で山行を計画し、雪洞造りを行う事や、来年度のスケジュール“救急法講座、気象講座”を実施予定。
  16. 写真展実行委員会(坂本)：写真展は無事終了した。各方面に説明をし、事業報告を済ませた。今後の撮影山行は記載の通り実施予定をしている。
  17. 【森の音楽祭について】支部としては今後、猿投の森づくりのメンバーと、支部活動と協調協業できる体制作りをして、その先に音楽祭があれば考える事とし、今回のイベントとしては大々的なことはしない。猿投の森の活性化をテーマにした活動を企画し取組んで行く。
- 出席：高橋、榊、坂本、今津、佐野、市川、井藤、前田、和田、山田、清水、鈴木、加藤、西山、千葉、荒木、草野、  
リモート参加：金谷、星、服田、
- ル ー ム 日 誌**  
—・— 3月 —・—・—・—・—・—
- 1 (月)支部友委員会
  - 2 (火)県岳連 TNCC
  - 3 (水)青年部
  - 4 (木)写真展実行委員会
  - 5 (金)古道塩の道
  - 7 (日)東海ユース
  - 8 (月)登山学校運営委員会
  - 10(水)山行委員会
  - 11(木)自然保護委員会
  - 12(金)全国支部懇談会
  - 15(月)図書委員会・読図会
  - 16(火)ボランティア委員会
  - 17(水)総務委員会・正副支部長会議

18(木)東学連  
22(月)支部友誼図会  
24(水)常務委員会  
25(木)技術向上委員会  
29(月)遭難対策委員会

22(木)技術向上委員会  
23(金)亀の会  
26(月)遭難対策委員会/支部友誼図会  
28(水)常務委員会  
30(金)支部友委員会

—・— 4月 —・—・—・—・—・—

1 (木)写真展実行委員会  
2 (金)古道塩の道  
5 (月)支部友委員会/学校指導員研修会  
6 (火)県岳連/TNCC  
7 (水)青年部  
9 (金)全国支部懇談会  
12(月)登山学校運営委員会  
13(火)支部友ミーティング  
14(水)山行委員会  
15(木)東学連  
19(月)図書委員会・読図会  
20(火)ボランティア委員会  
21(水)総務委員会・正副支部長会議

### 会員異動

**入会:** 土屋正樹(16716) 古川真理子(16721)  
岩田和久(16770) 原田憲一(16775)  
加藤さつき(16725) 大島巖(16762)  
井波隆(16766) 井波美里子(16767)  
二関敦子(16764) 堀端静夫(16774)  
杉谷正弘(16722) 浅田直美(16763)  
上床良江(16771) 野崎あかね(16776)  
林須美子(16773) 太田薫子(16772)  
印藤義子(16769) 印藤寿浩(16768)  
加賀サユリ(16784) 杉浦哲夫(16779)  
**退会:** 牛嶋敏明(15701) 水谷俊夫(11247)  
山下幸祐(15117) 服部晋吾(16530)  
井上忠臣(16312) 水井将博(15782)

## INFORMATION

### 【支部設立60周年記念事業実行委員会からのお知らせ】

昨年6月実施予定の「記念の集会」が、コロナ禍で中止になりました。まだ予断は許しませんが、今秋には収束への目途が見えてまいりました。つきましては、念願の「記念の集い」を新春恒例の新年会を兼ねまして実施したいと思っております。概要が決まりましたので、支部員・支部友各位の予定表に落とし込んでおいてください。

期日：令和4年1月16日（日）13時受付開始  
場所：今池ガスビル

内容：Ⅰ部 式典及び講演会  
Ⅱ部 アトラクション  
Ⅲ部 懇親会

詳細は次号に掲載いたします。

実行委員会 尾上 昇

### 【自然保護委員会からのお知らせ】

自然保護委員会では、現在2件の動物調査を展開しています。その一つは、猿投の森の動物調査です。2011年ぐらいから、猿投の森にどのような動物が棲んでいるのかを調べています。

梶浦昌巳(15279)

そのうちの大きな出来事は子グマの写真を瀬戸警察署に提供して猿投山登山についての注意を広く呼び掛けたことです。通年の赤外線カメラによる調査を続けています。

二つめはヤマザクラフィールドで環境省の委嘱を受けて、大型哺乳類動物の調査を2019年度より始めています。毎月5～10月の第1土曜日に調査をしています。これは全国調査であるので、雪の多い地方の調査は難しいとの判断によるものです。

調査に興味のある方は [Ngg20063@nifty.com](mailto:Ngg20063@nifty.com) までご連絡ください、調査は半日で終わります。もっと、猿投の森を楽しみましょう。

自然保護委員会 井藤恵美子

### 編集後記

国内の山行は、コロナ禍下、厳しい制限の下に行われている。一方海外ではどうか。エベレストの登頂に数珠繋ぎ状態で登る登山者の報道があった。島国と大陸続きの国々の登山事情は違うようである。ワクチン接種の次は、隔てのない日常がすぐには戻らないが、すぐ近くまで来ていると思いたい。 星 一男

SINCE 1975  
**mont-bell**  
FUNCTION IS BEAUTY

最新情報はこちらから  
[www.montbell.jp](http://www.montbell.jp)



0088-22-0031 06-6536-5740

株式会社 **モンベル** 【お問い合わせ】モンベル・カスタマー・サービス

法務相談は行政書士にお任せください!

相続

会計

許認可

**1時間無料相談**

あなたの不安を解決に導きます

遺言書、遺産分割協議書、  
法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



**西山行政書士事務所** ☎052-961-6506

名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004  
[www.nygs-office.com](http://www.nygs-office.com)

久屋大通駅  
徒歩1分

『東海支部報』では、  
広告を募集しております

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは

[room01@muse.ocn.ne.jp](mailto:room01@muse.ocn.ne.jp) まで

\*\*\*\*\* OMC \*\*\*\*\*

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014  
名古屋市中区富士見町8番8号

\*\*\*\*\*

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や  
デザイン、インテリアやセキュリティなど  
オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえでお応えいたします。



郵送無料 Honesty

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。  
お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34  
TEL : 052-241-3686 FAX : 052-241-0457

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒461-0044 名古屋市中区東区矢田東1番22号  
TEL (052)719-0677 FAX (052)719-0678  
E-mail : [info@asai-rbs.co.jp](mailto:info@asai-rbs.co.jp)